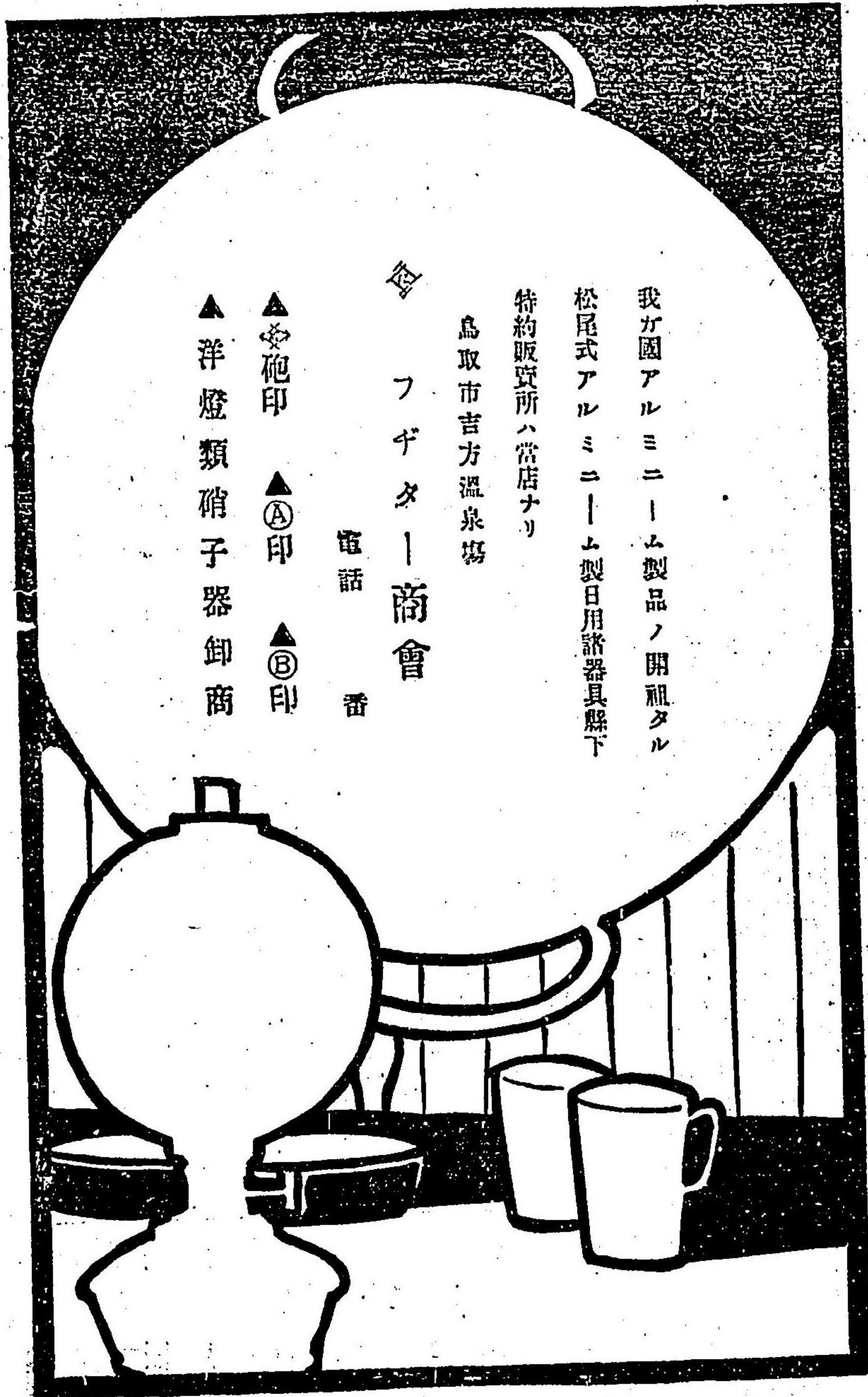


J-82



我が國アルミニウム製品ノ開祖タル

松尾式アルミニウム製日用諸器具縣下

特約販賣所ハ當店ナリ

鳥取市吉方温泉場

フヂター商會

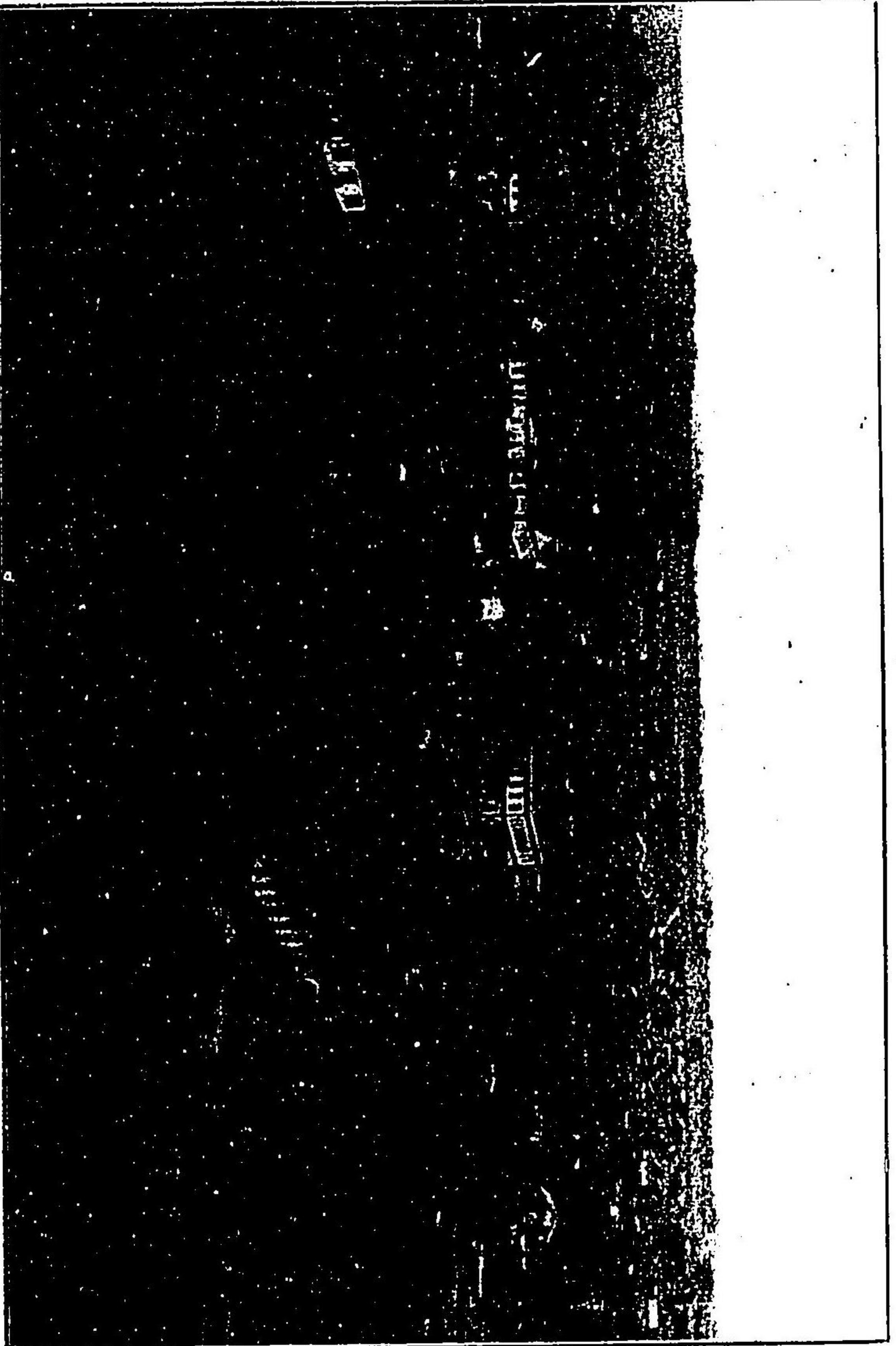
電話 番

▲砲印

▲A印

▲B印

▲洋燈類硝子器卸商



鳥取城趾ヨリ鳥取市街ヲ取ル

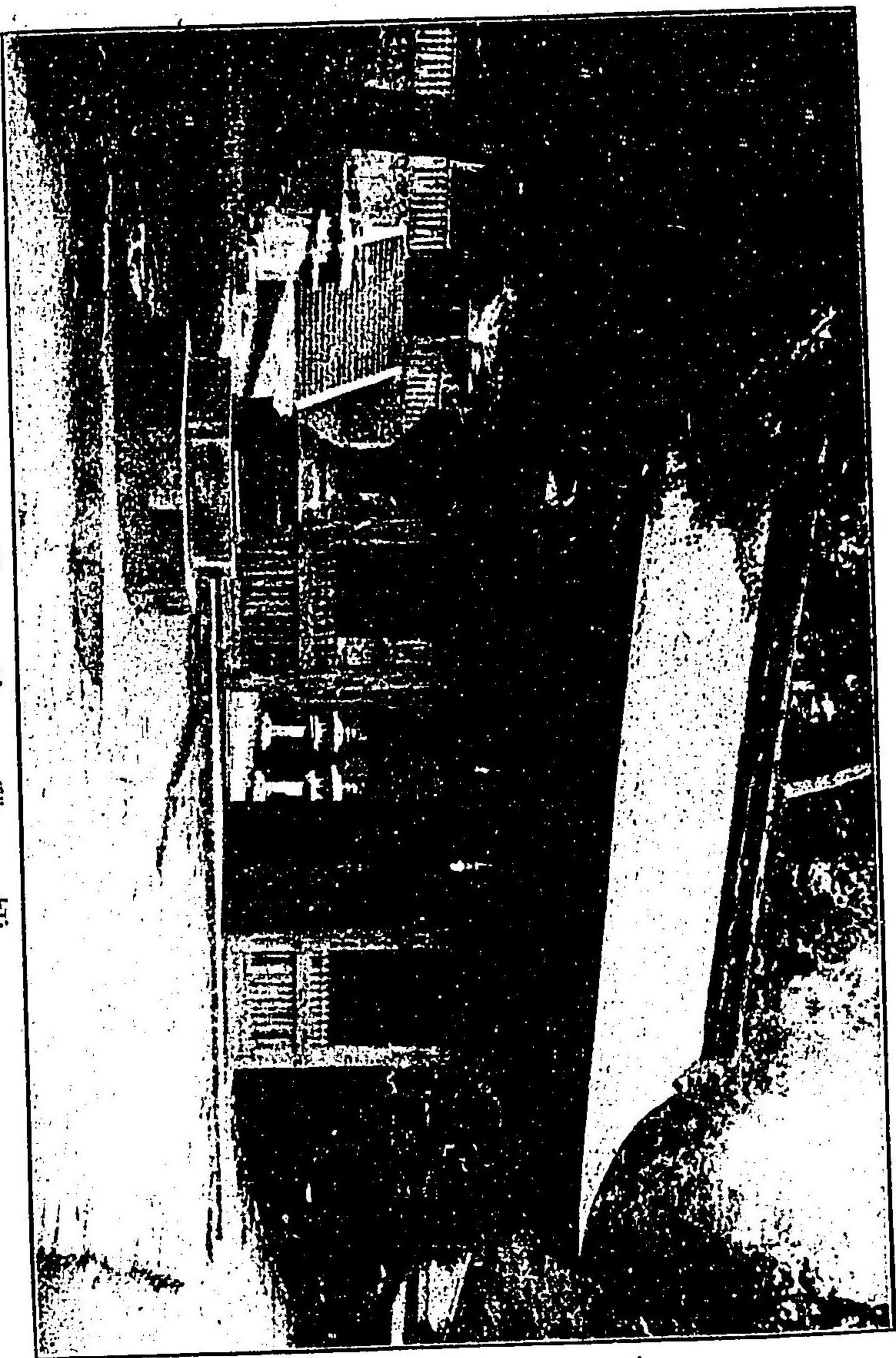
愛國生命保險株式會社
 横濱火災保險株式會社

鳥取代理店 拾壹代油屋惣兵衛事 間嶋 辨次郎

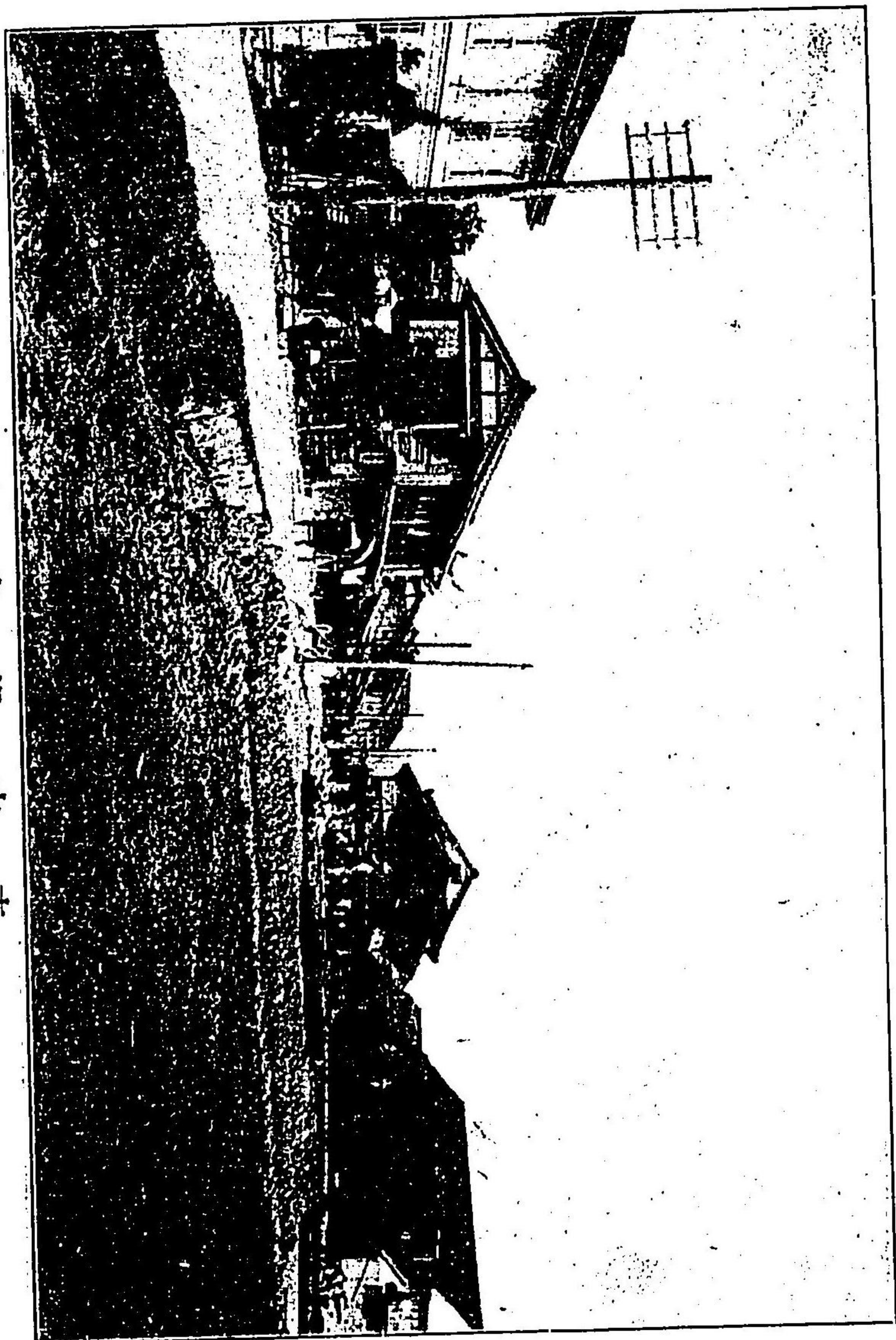
三物油
 三名美精香
 毛をふく
 黒くする
 加羅煉油 香油香水
 梅花水油 和洋蠟燭
 製造卸小賣商
 油大物也兵五
 新取

創業者長年 間
 電話 二七八番
 振替 口座 大阪 四七四九番
 舊池田藩主御用油

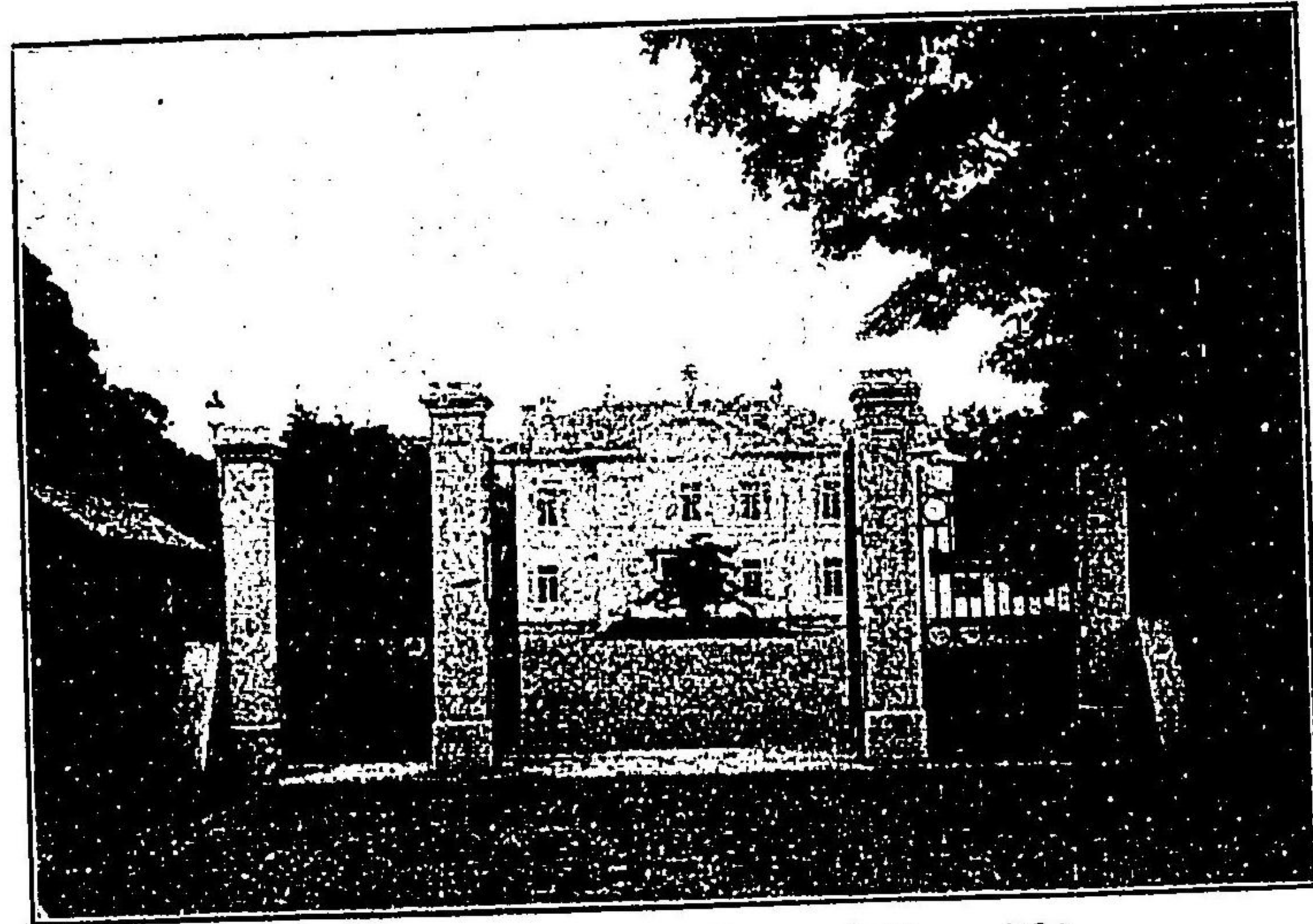
特49
913



栲 祭 神 社 (門神隨)



吉 方 温 泉 場



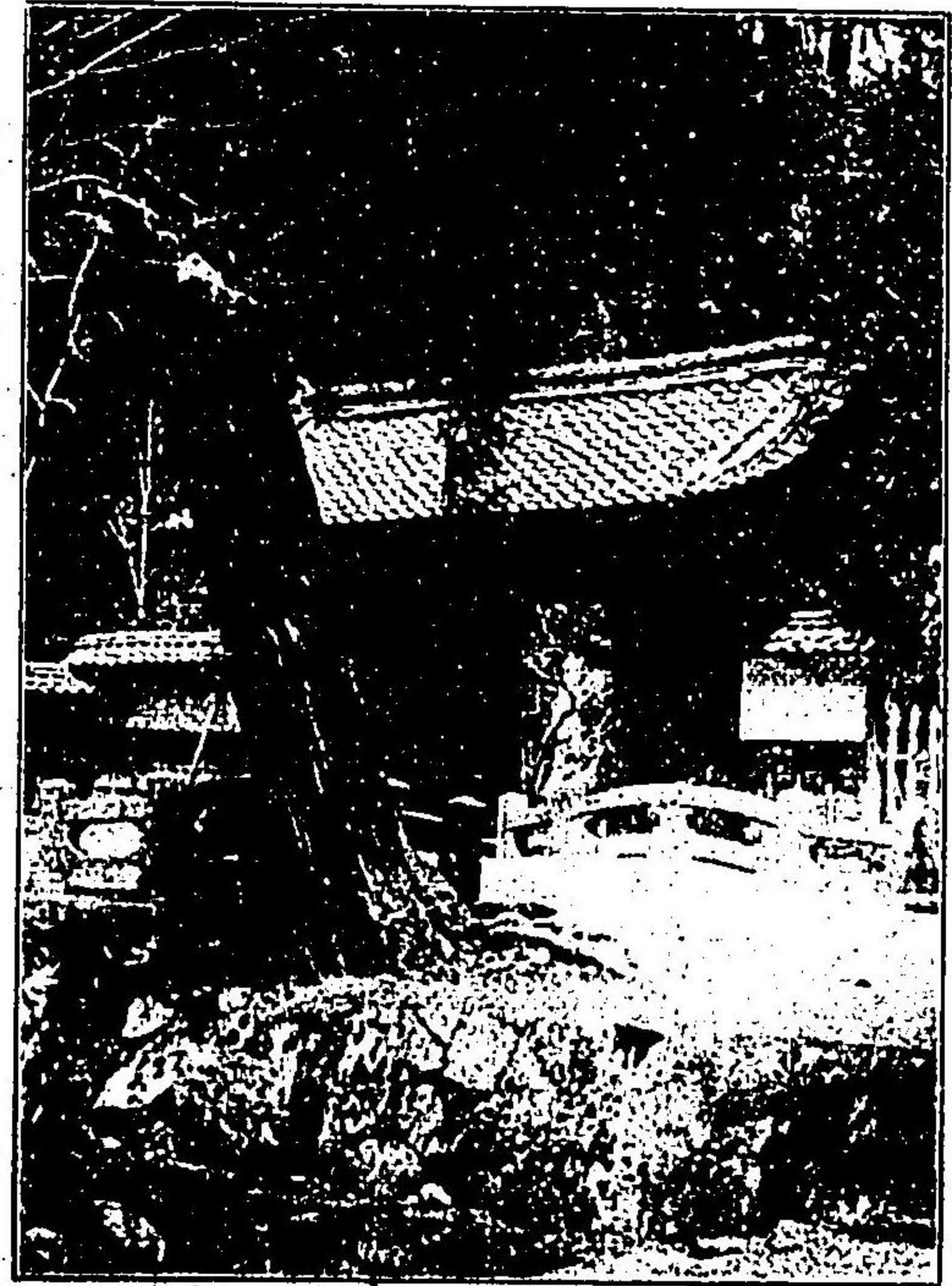
門正閣風仁(邸扇)



閣風仁(邸扇)

栲
谿
神
社

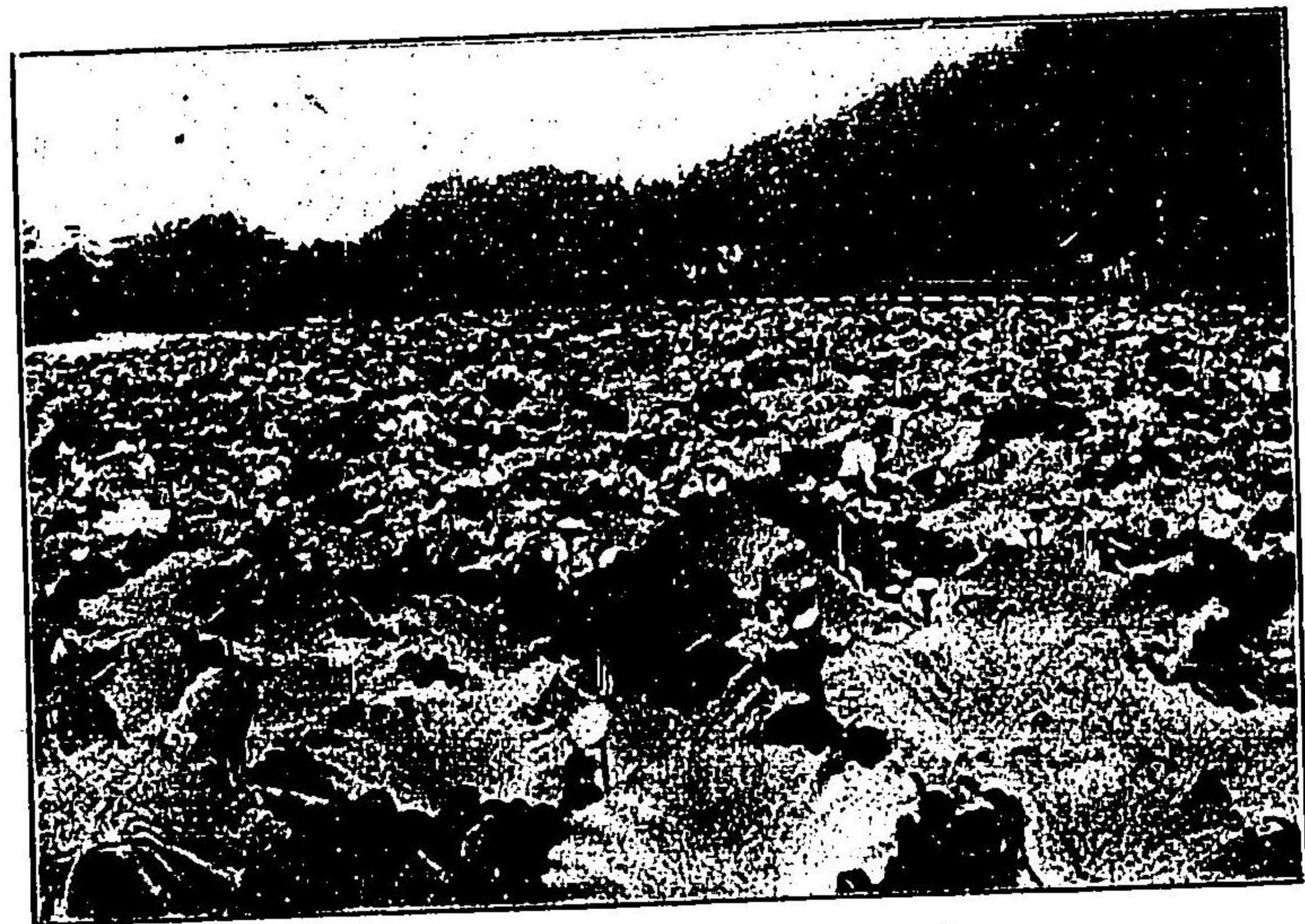
(巾ノ門)



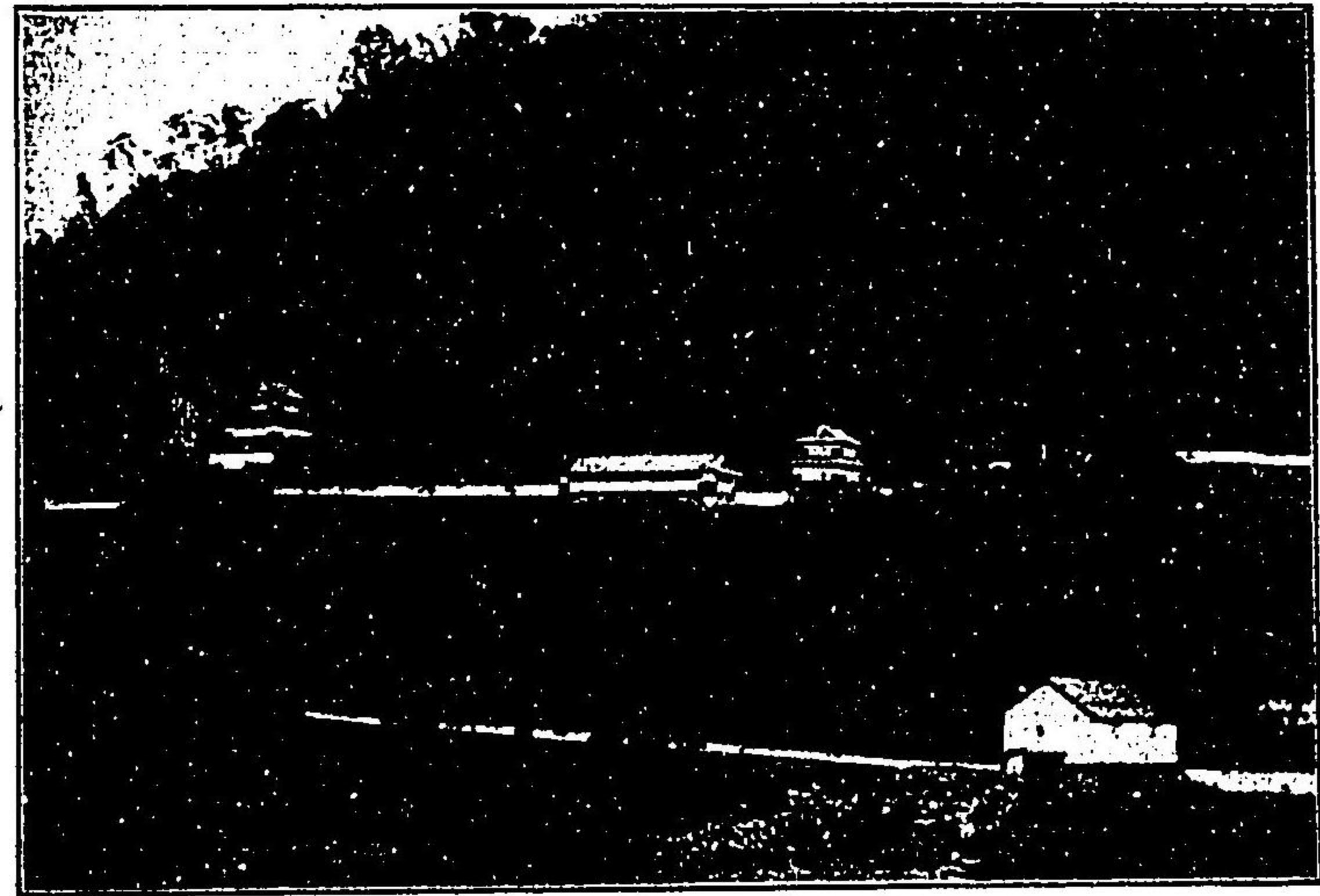
瀧ノ谿栲



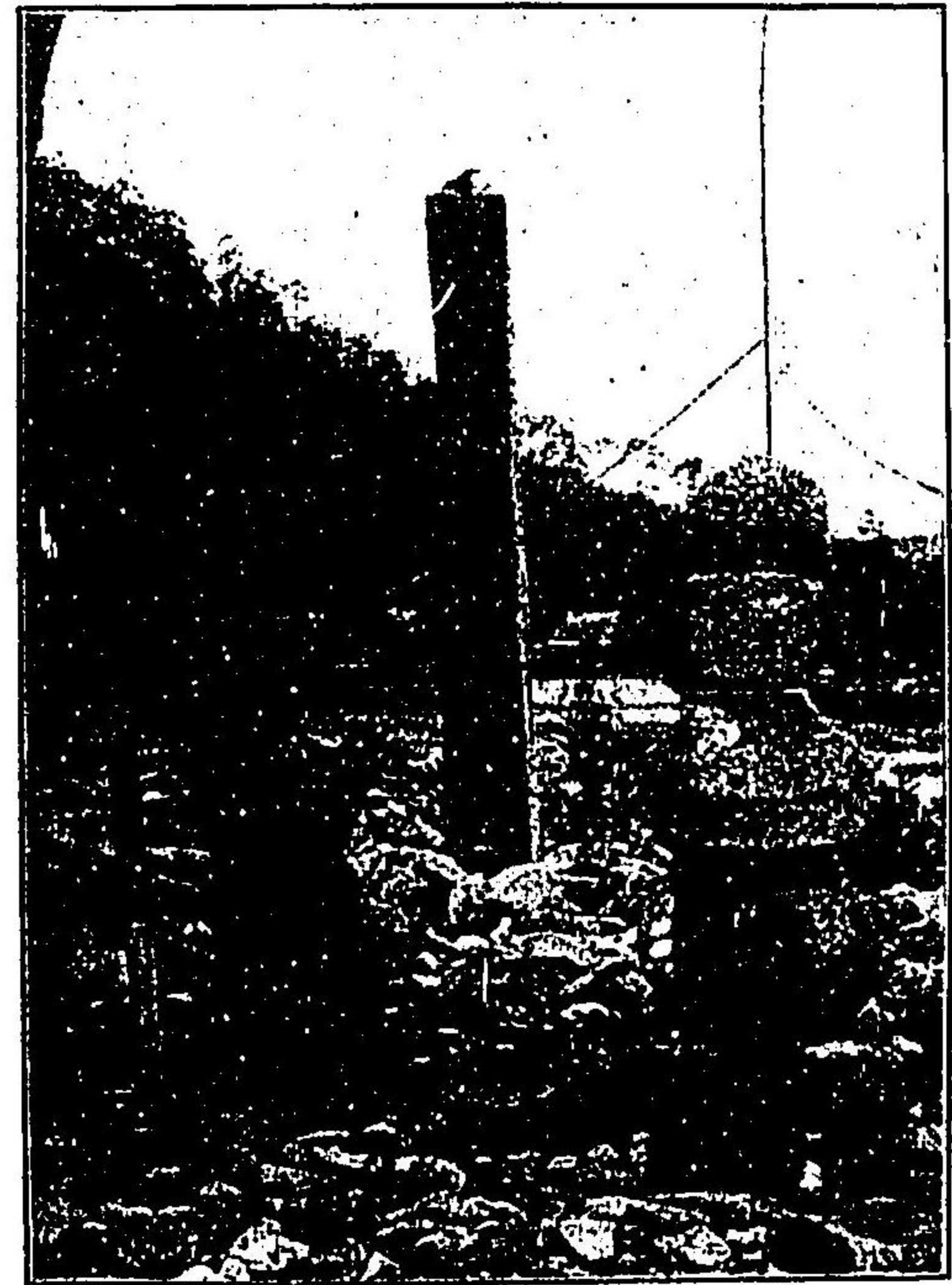
鳥取中學校



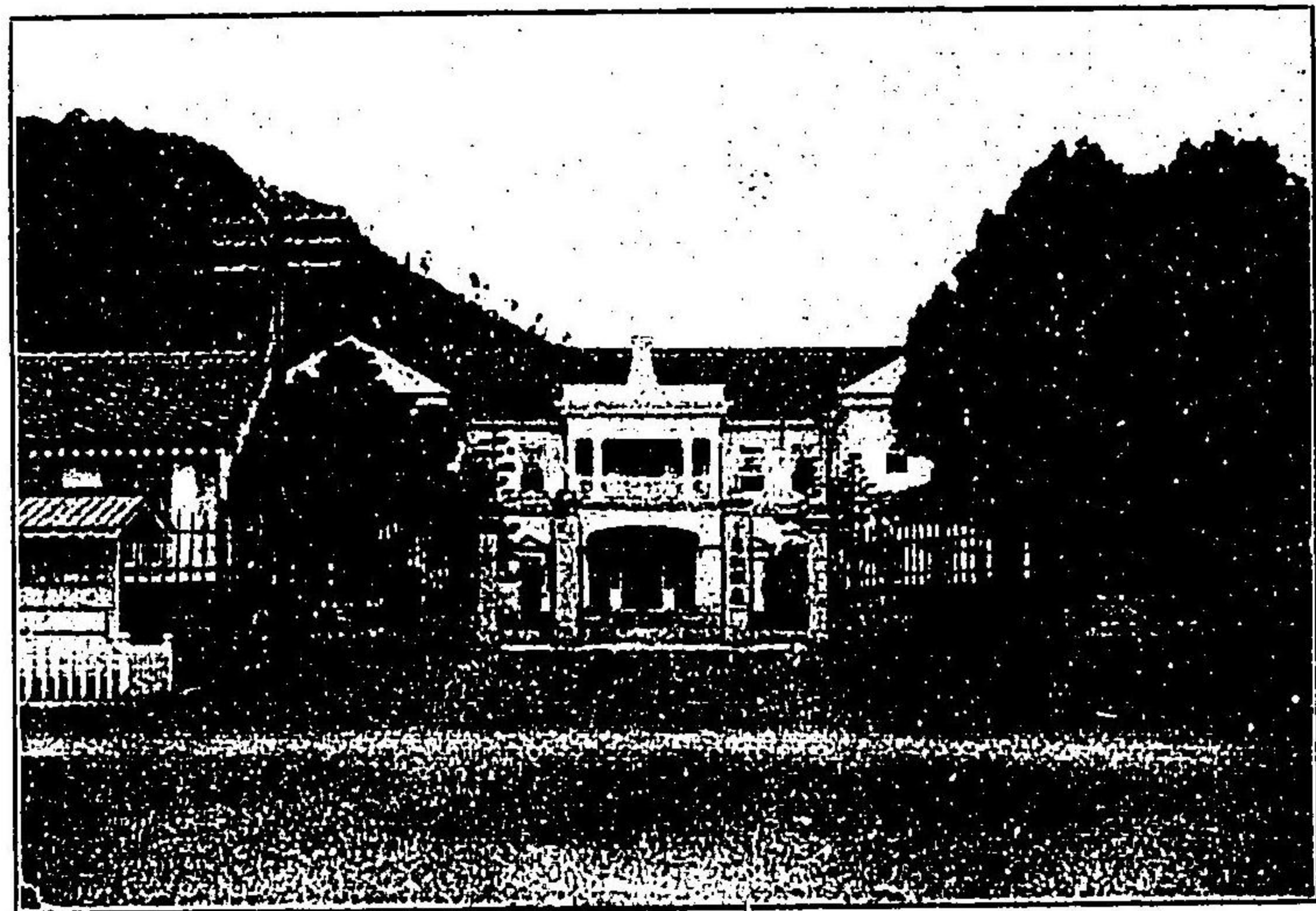
城濠ノ蓮花



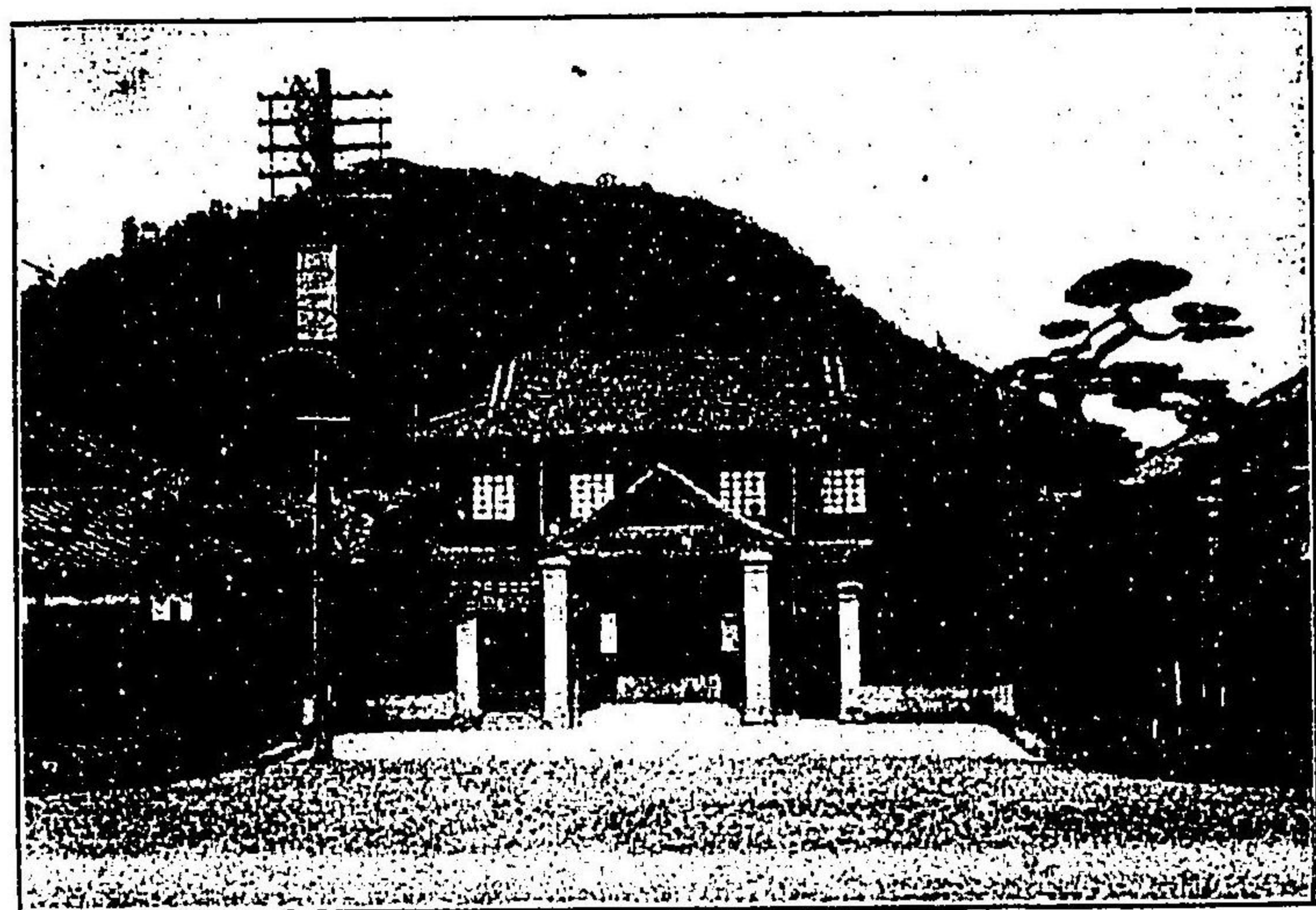
上、舊鳥取城
下、吉川經家之墳墓



毀城當時
攝



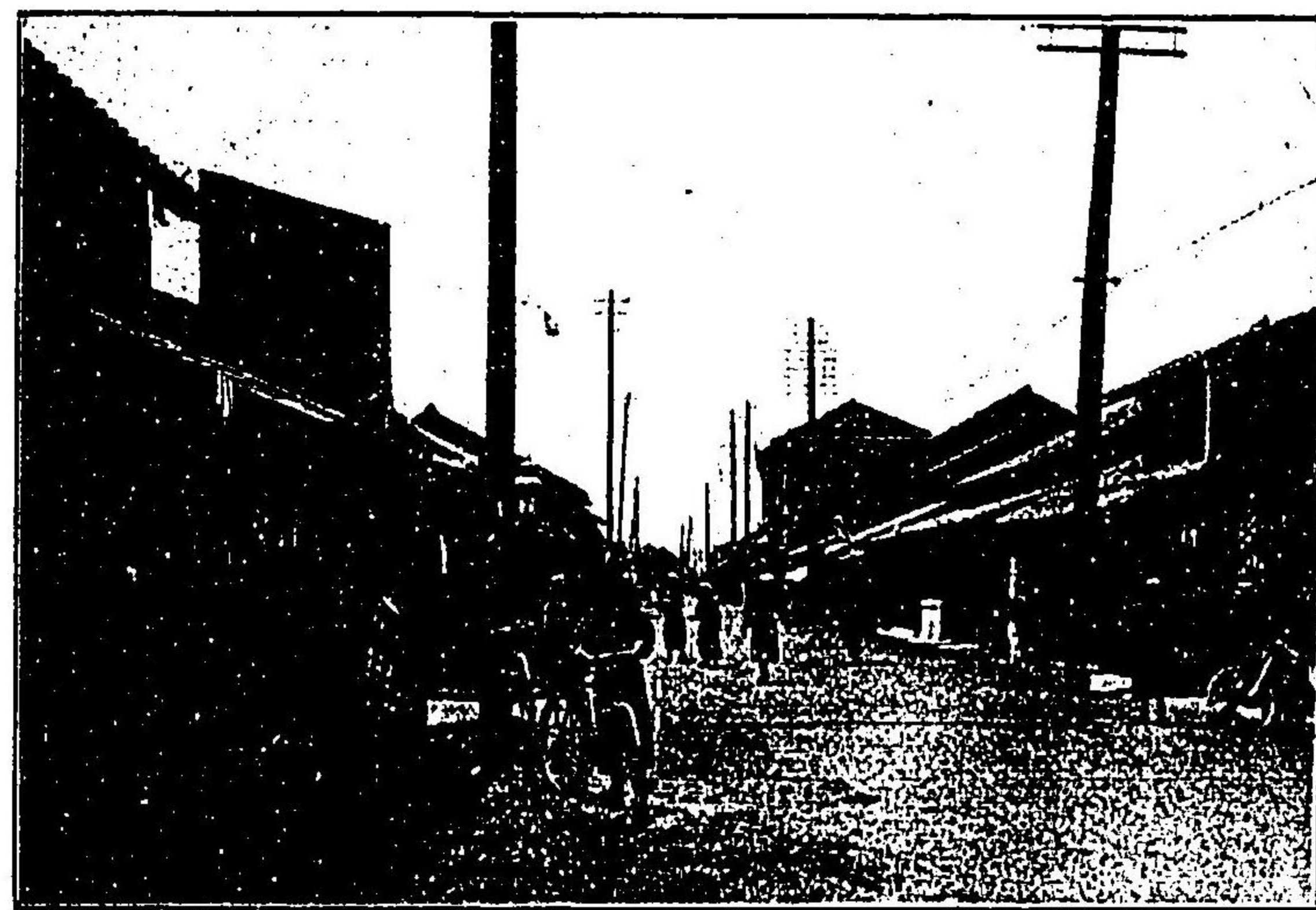
鳥取縣廳



鳥取地方裁判所



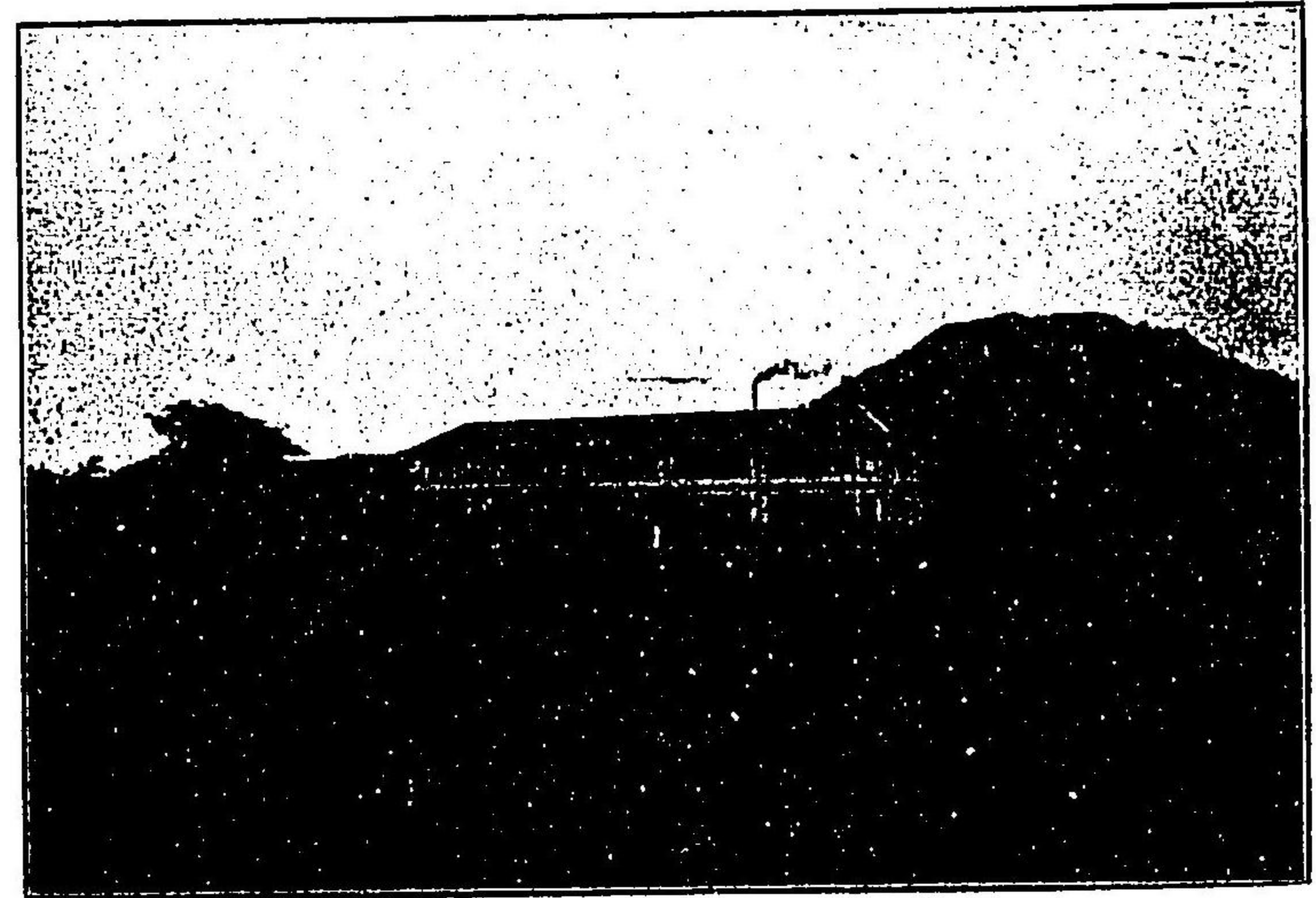
若櫻街道筋



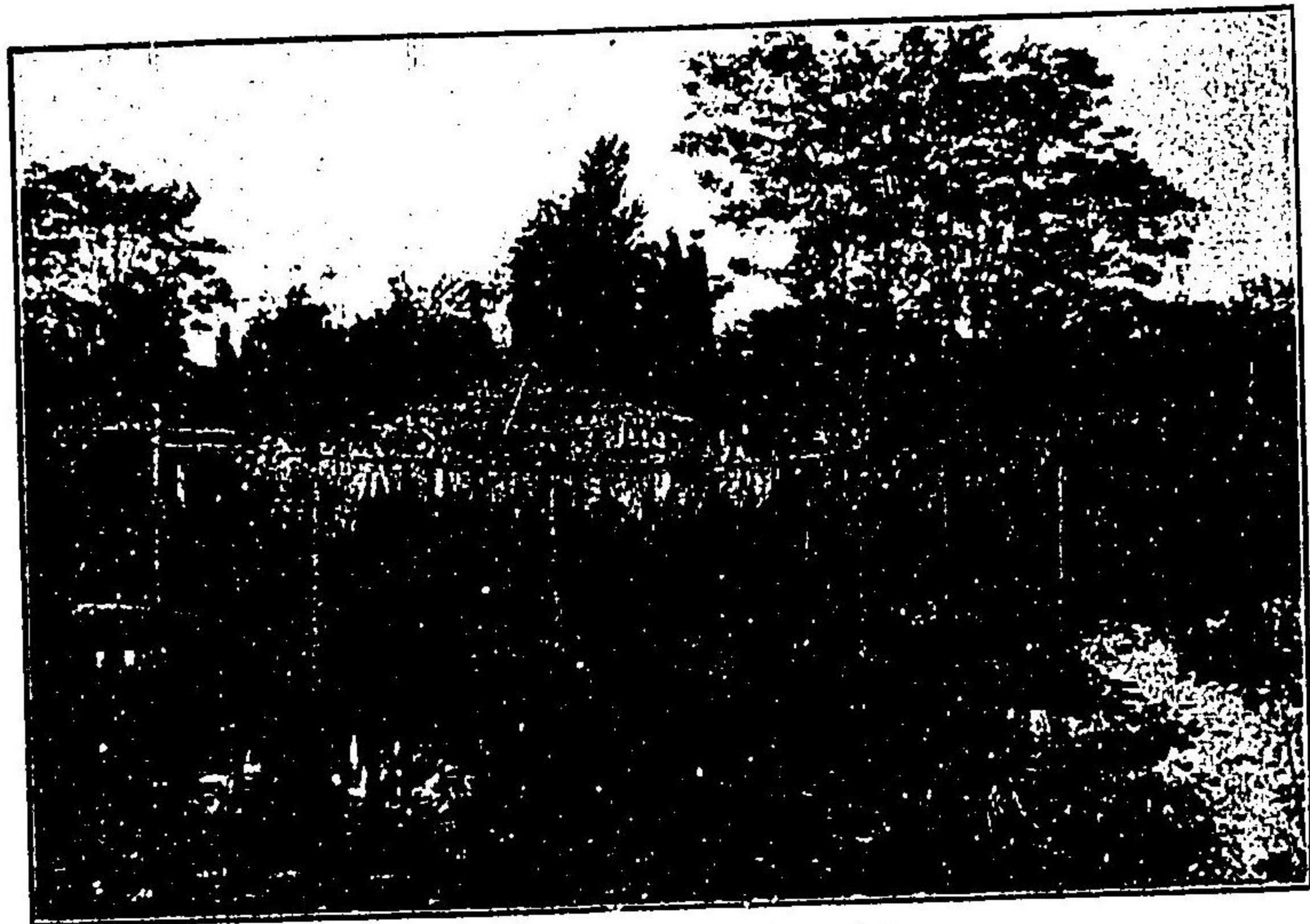
智頭街頭道筋



鳥取温泉 (吉方温泉場) 鳥取温泉



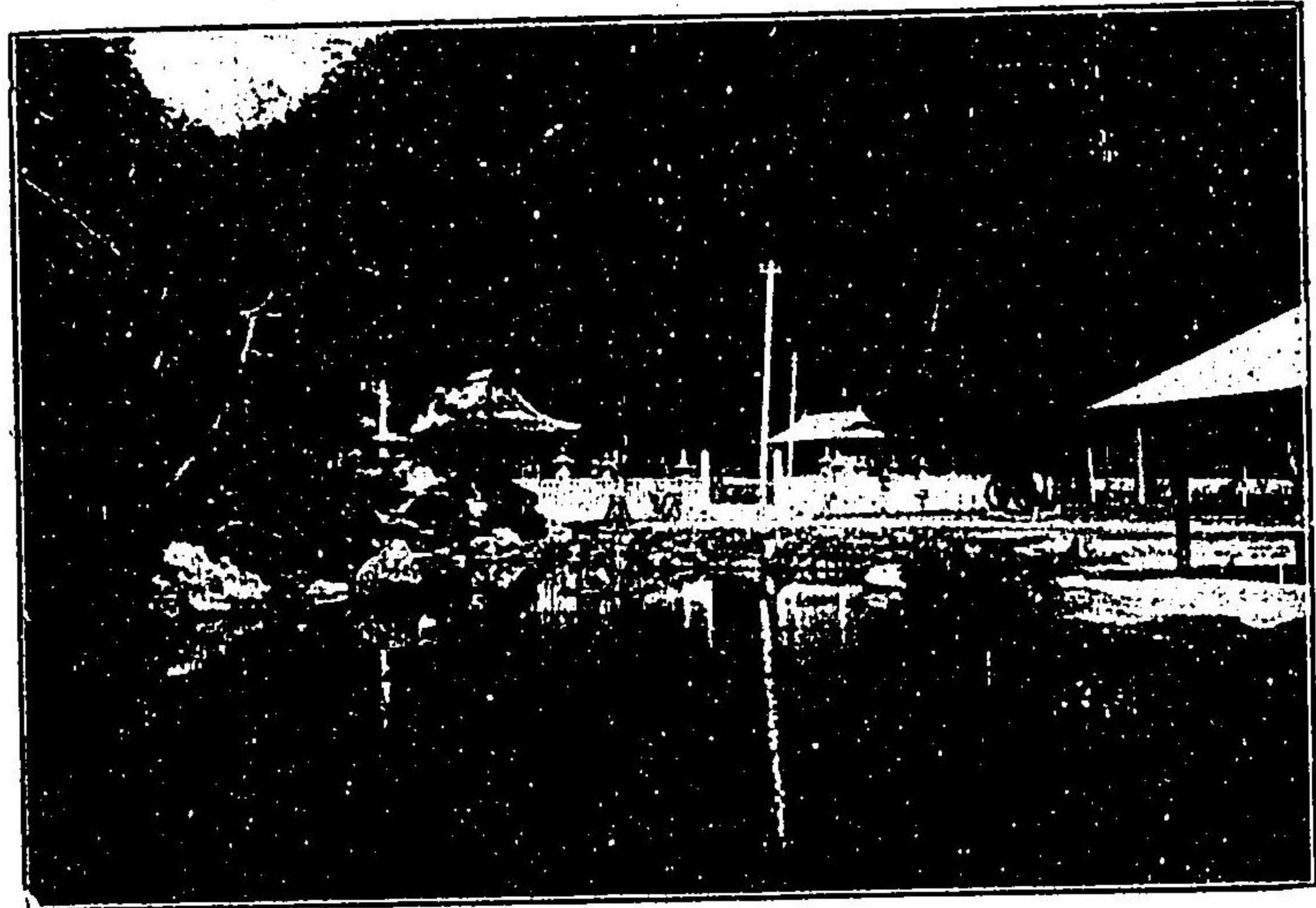
日進尋常小學校



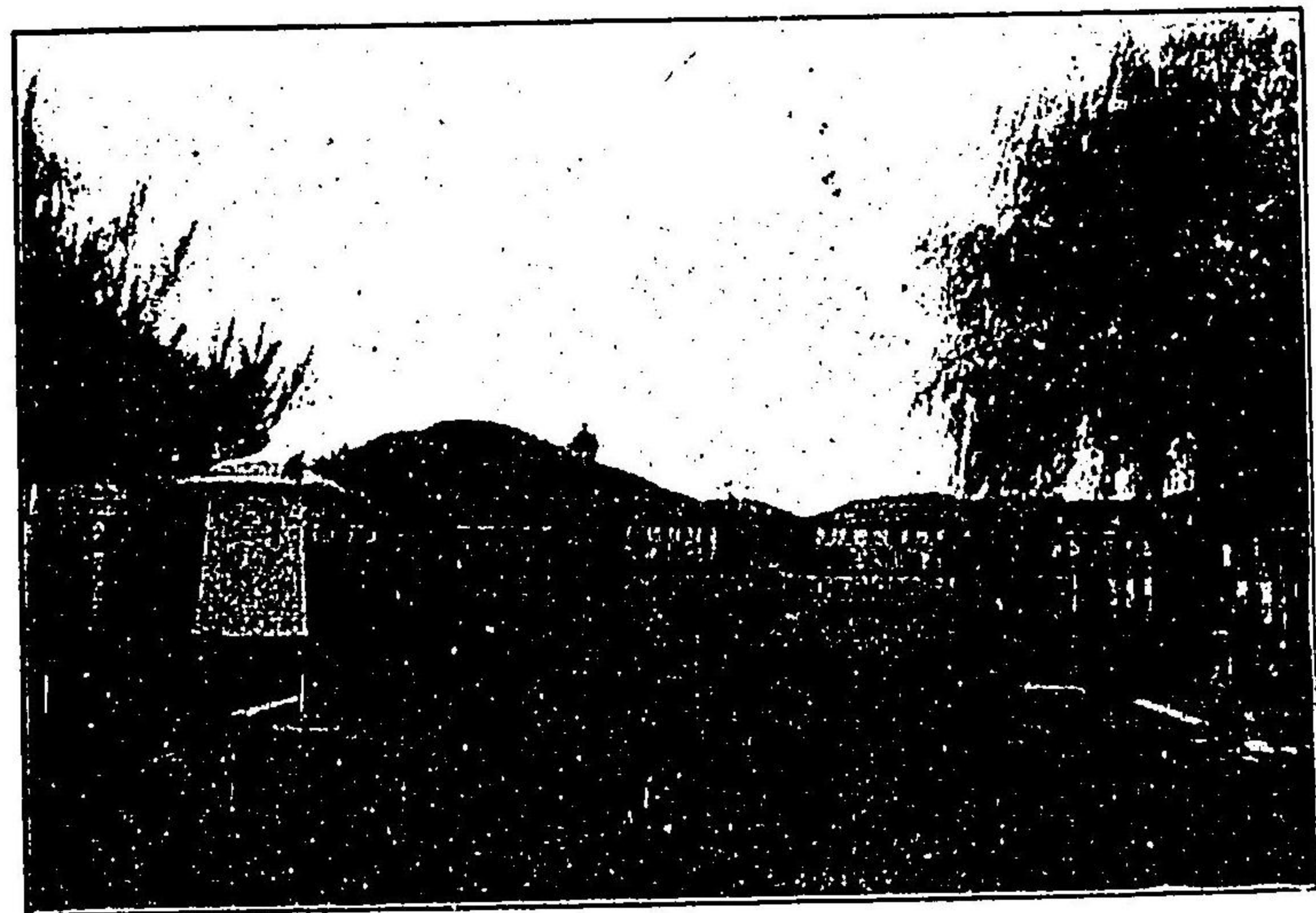
伊吹植物園



鹿野街道 (朝市)



鳥取招魂社



步兵第十四聯隊



渡邊數馬ノ墓



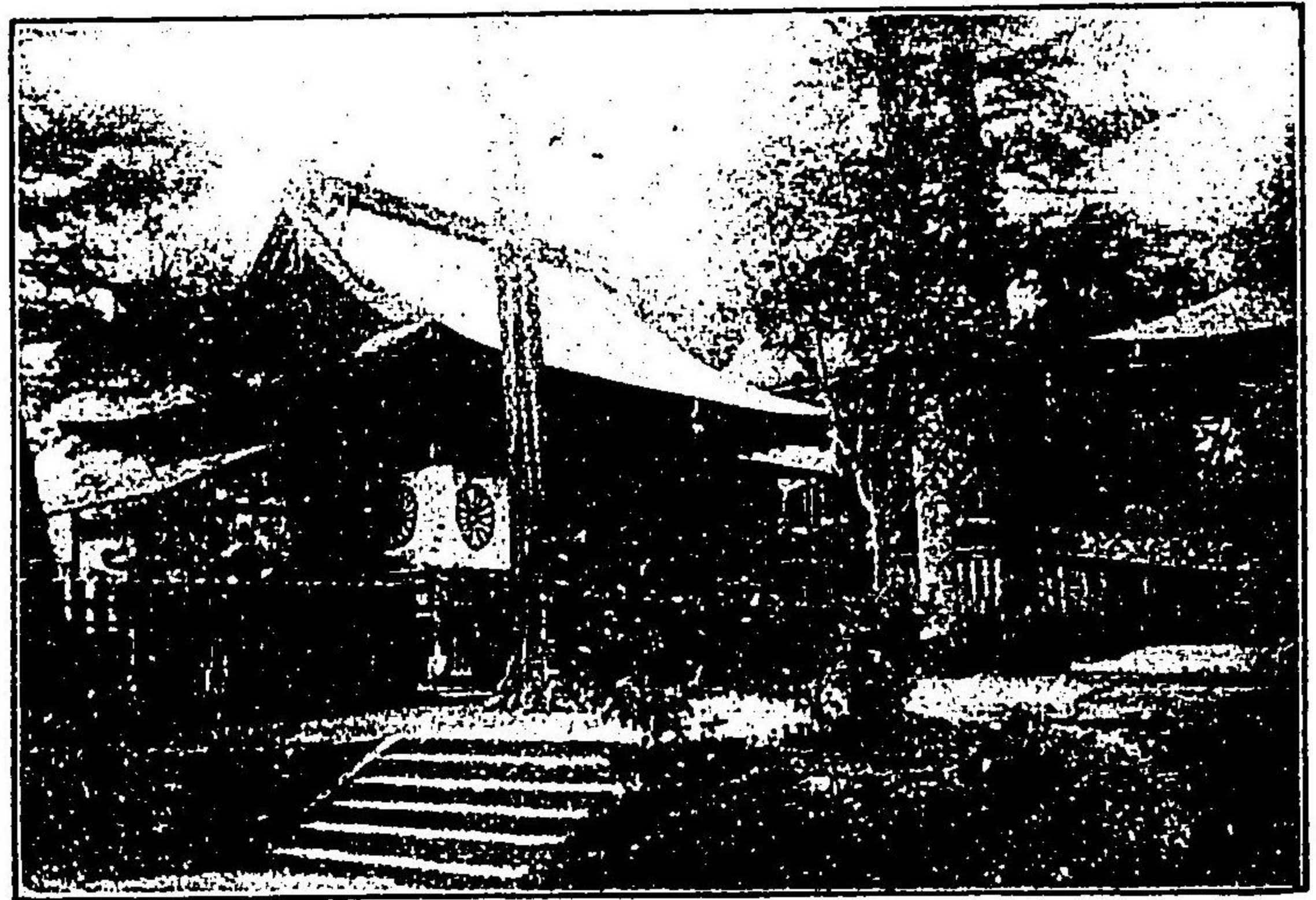
荒木又右衛門ノ墓



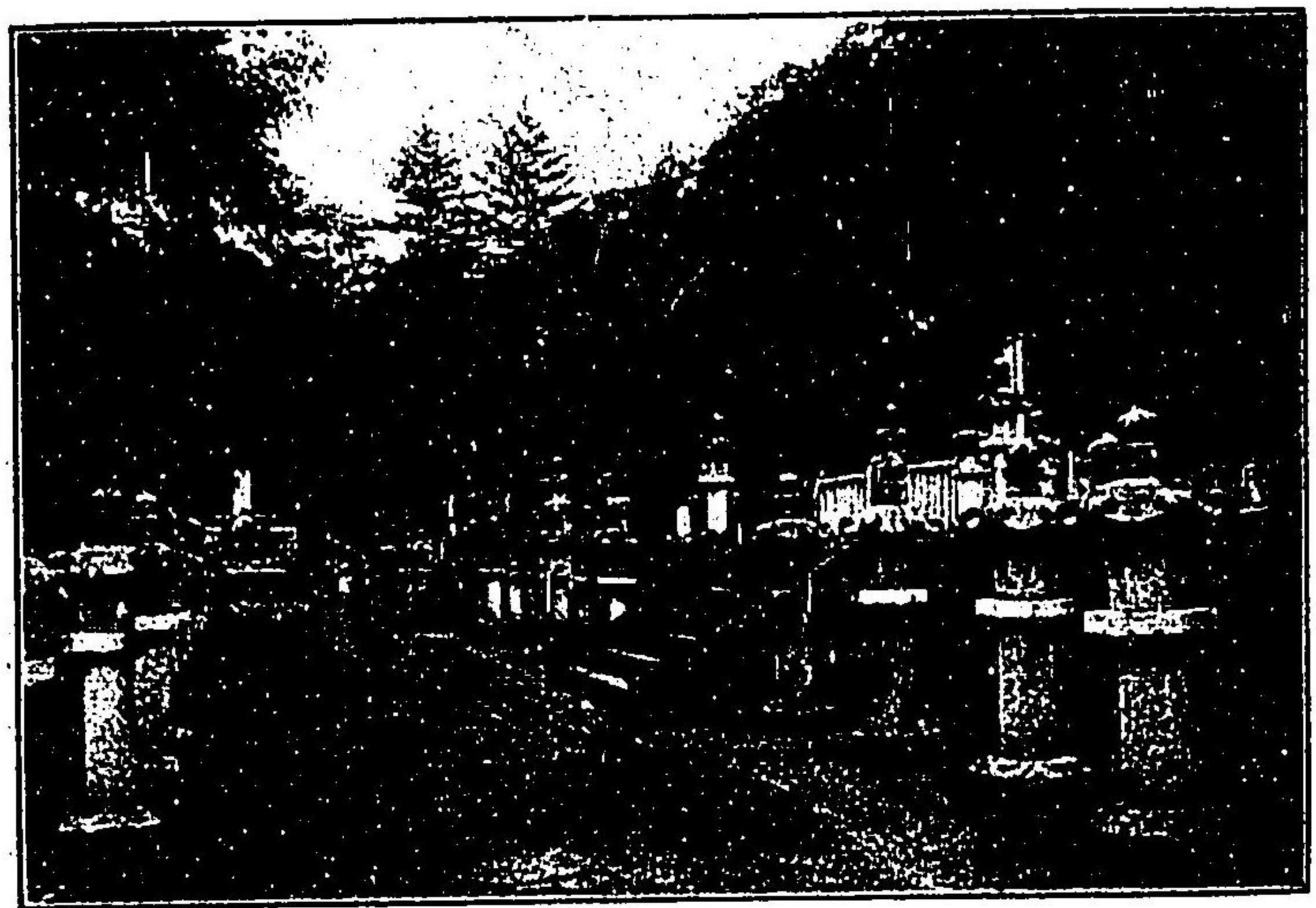
安徳帝御陵墓參考地



賀露港



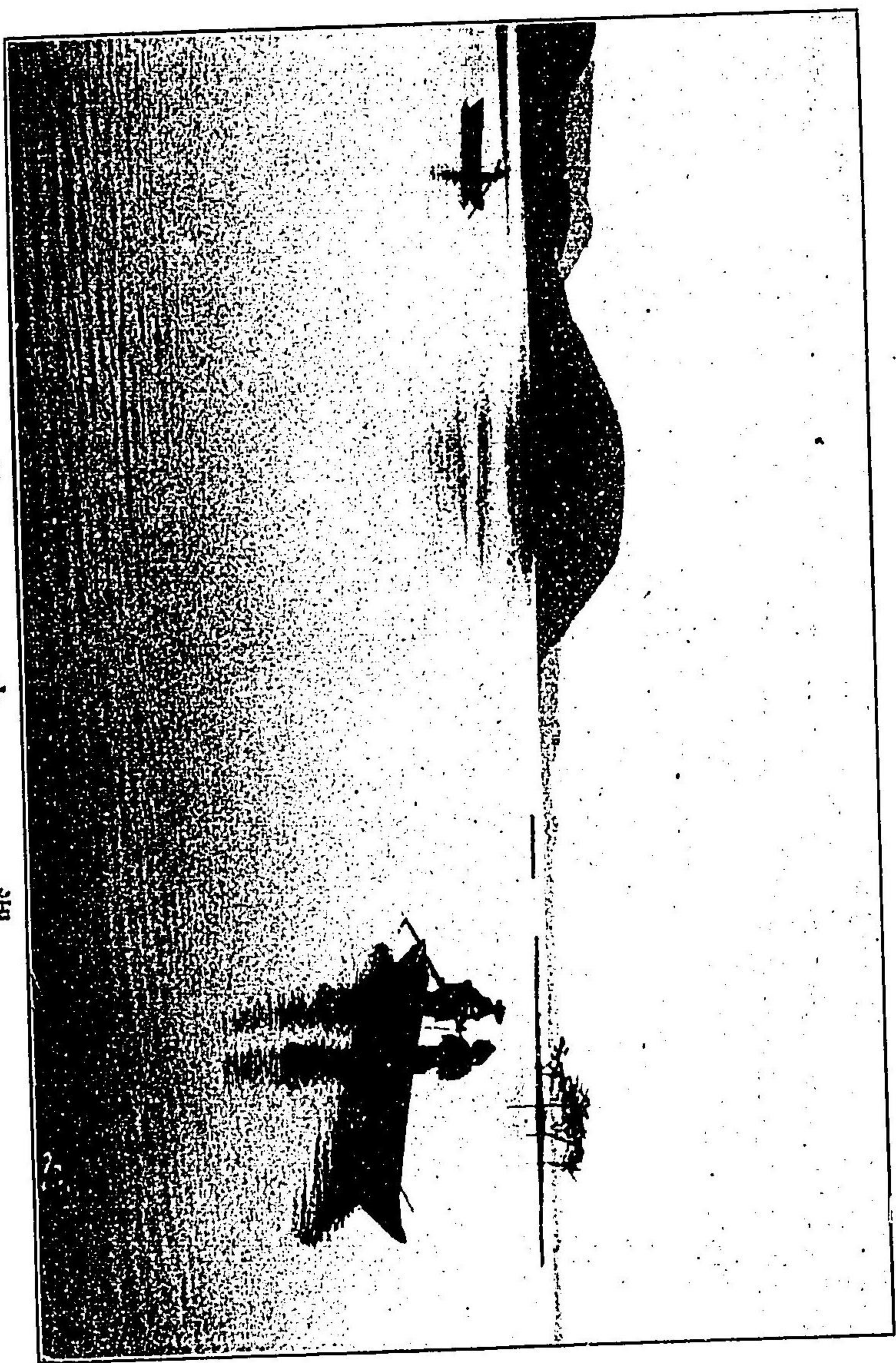
宇倍神社 (國幣中社)



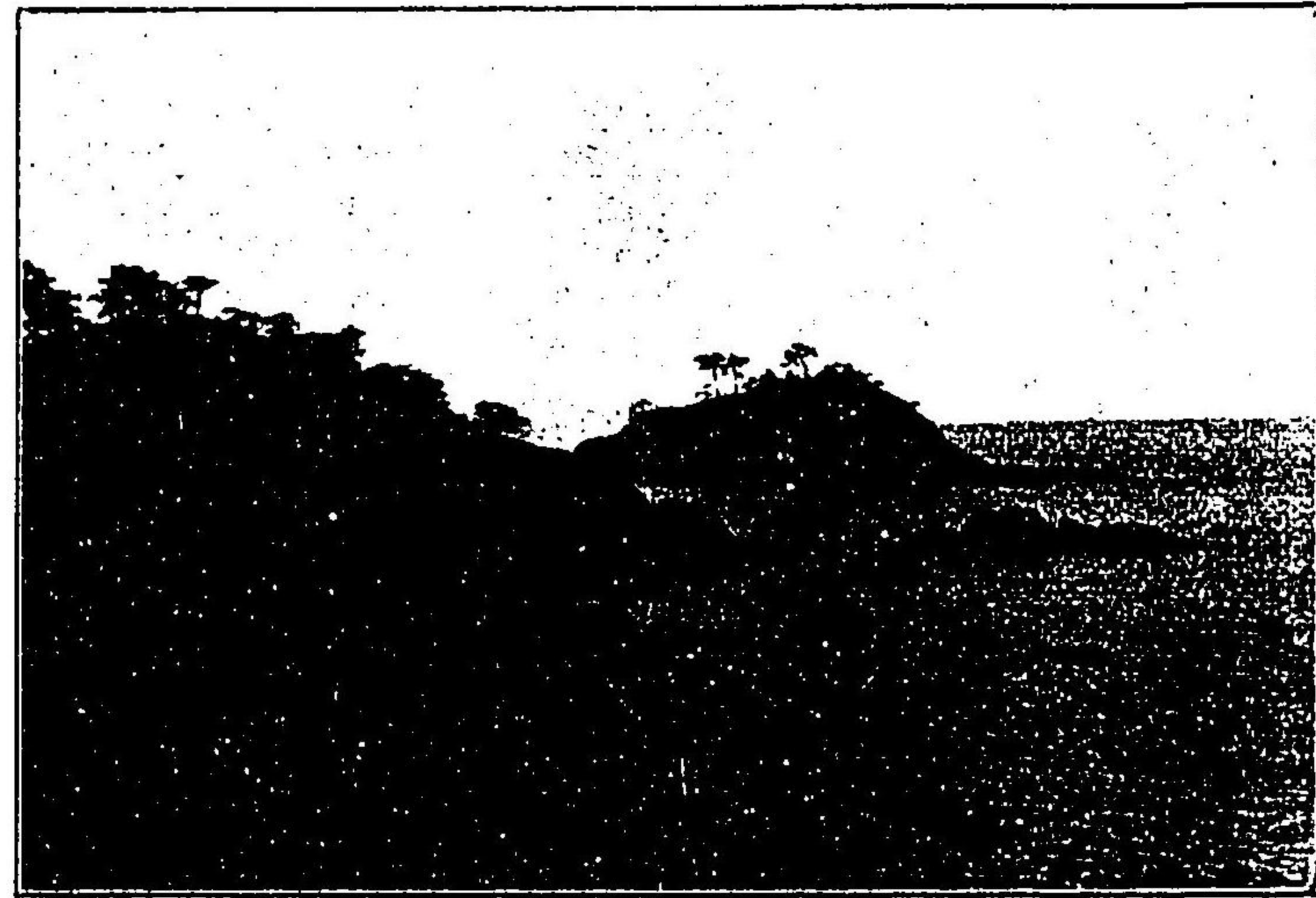
池田候爵家ノ墳墓



摩尼寺



湖山池



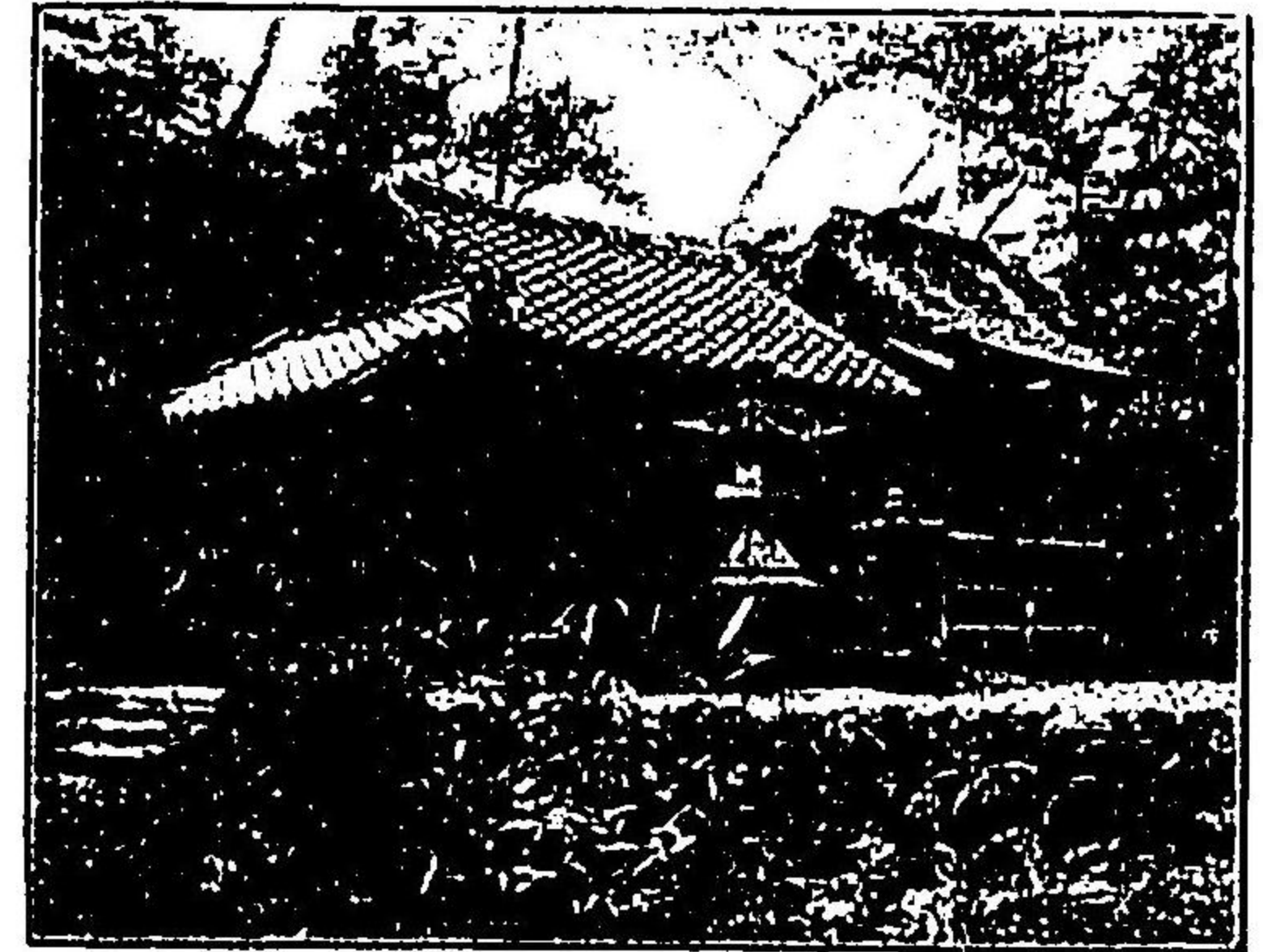
浦 富 海 岸

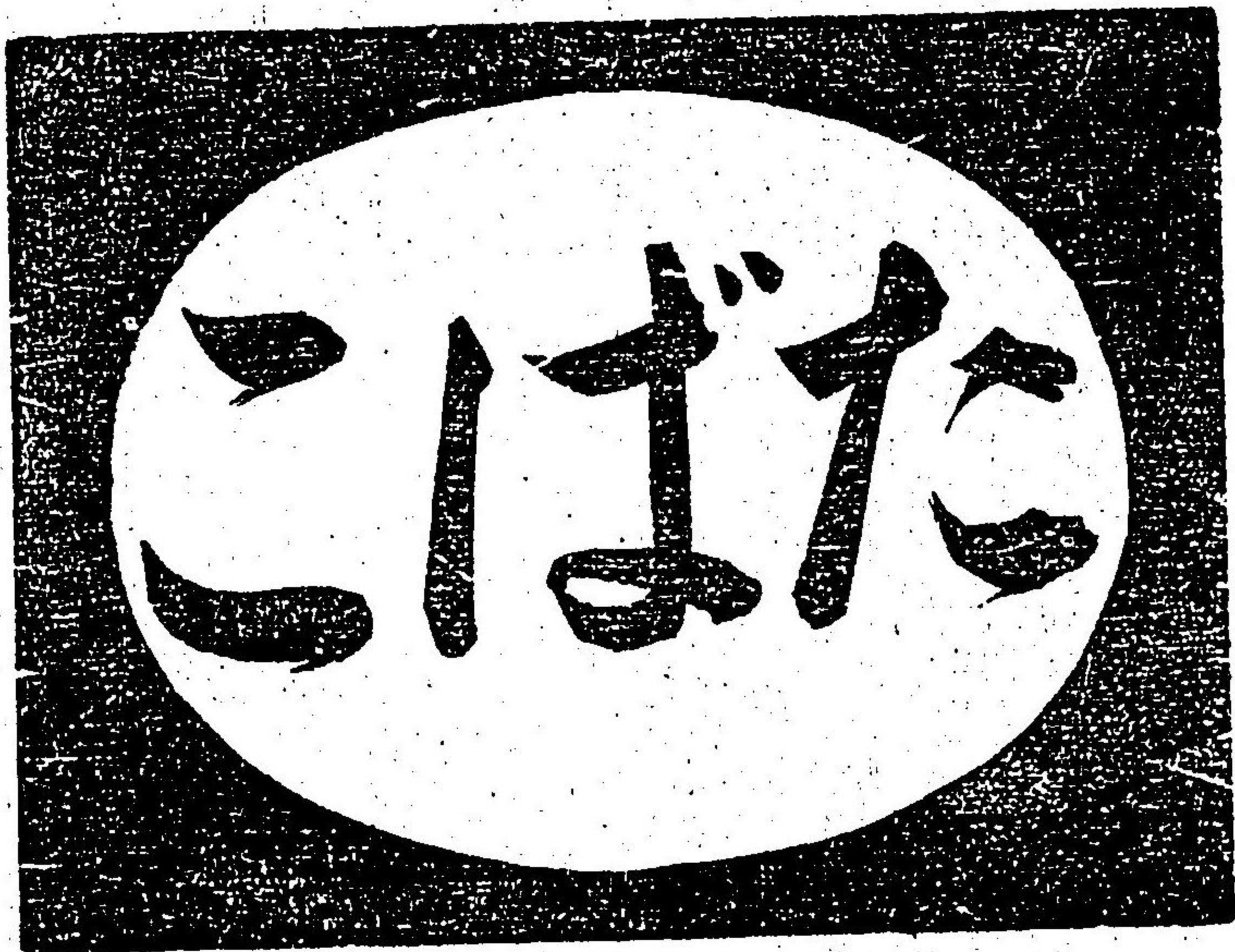


(代綱) 千 貫 松 島



白 兔 神 社
上 於 岐 島
下 高 尾 山





石 鹼、齒 磨

あ ら ひ 紛

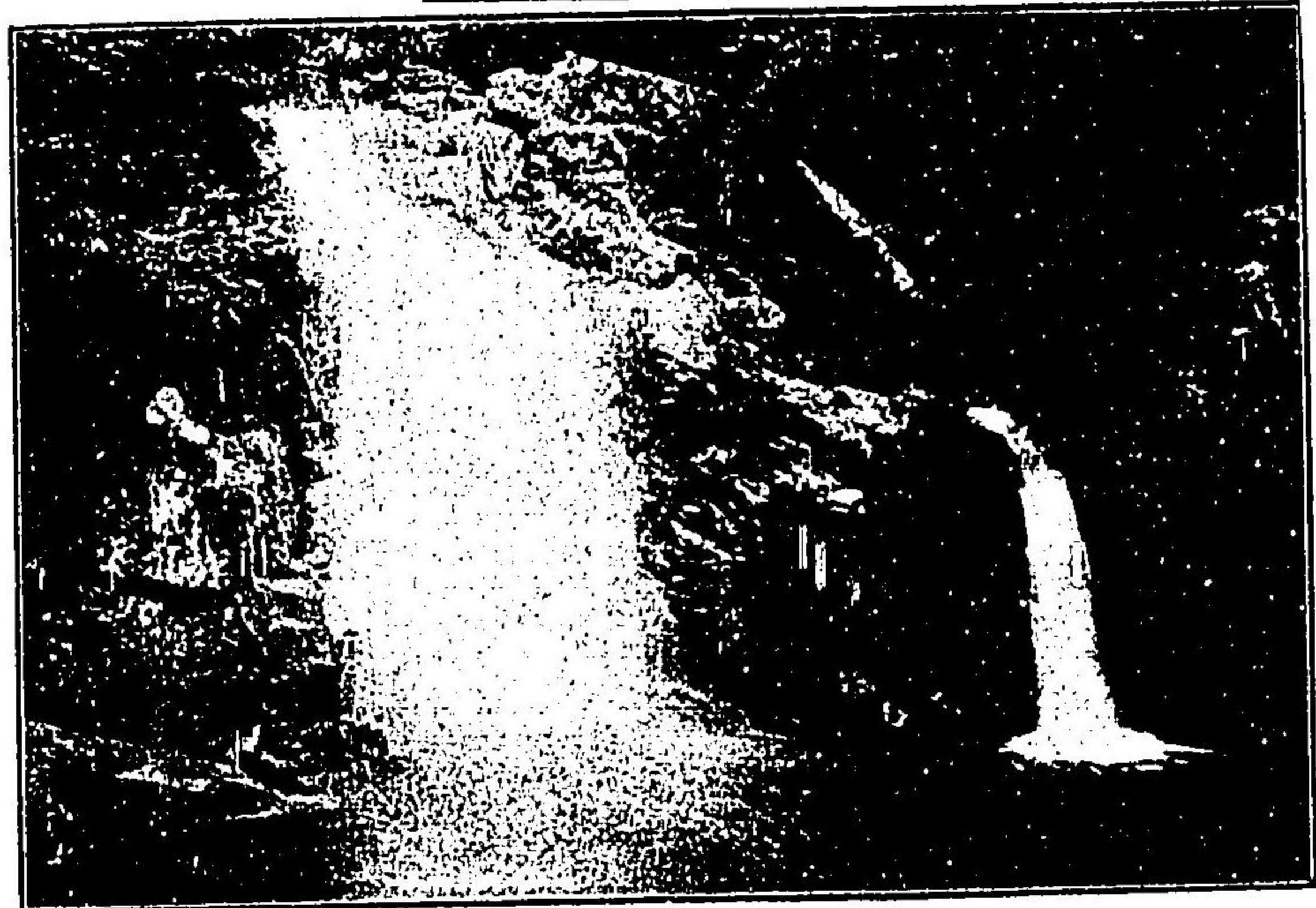
鳥 取 名 所 繪 葉 書

鳥 取 市 吉 方 温 泉 場

松 本 商 店



雨 流



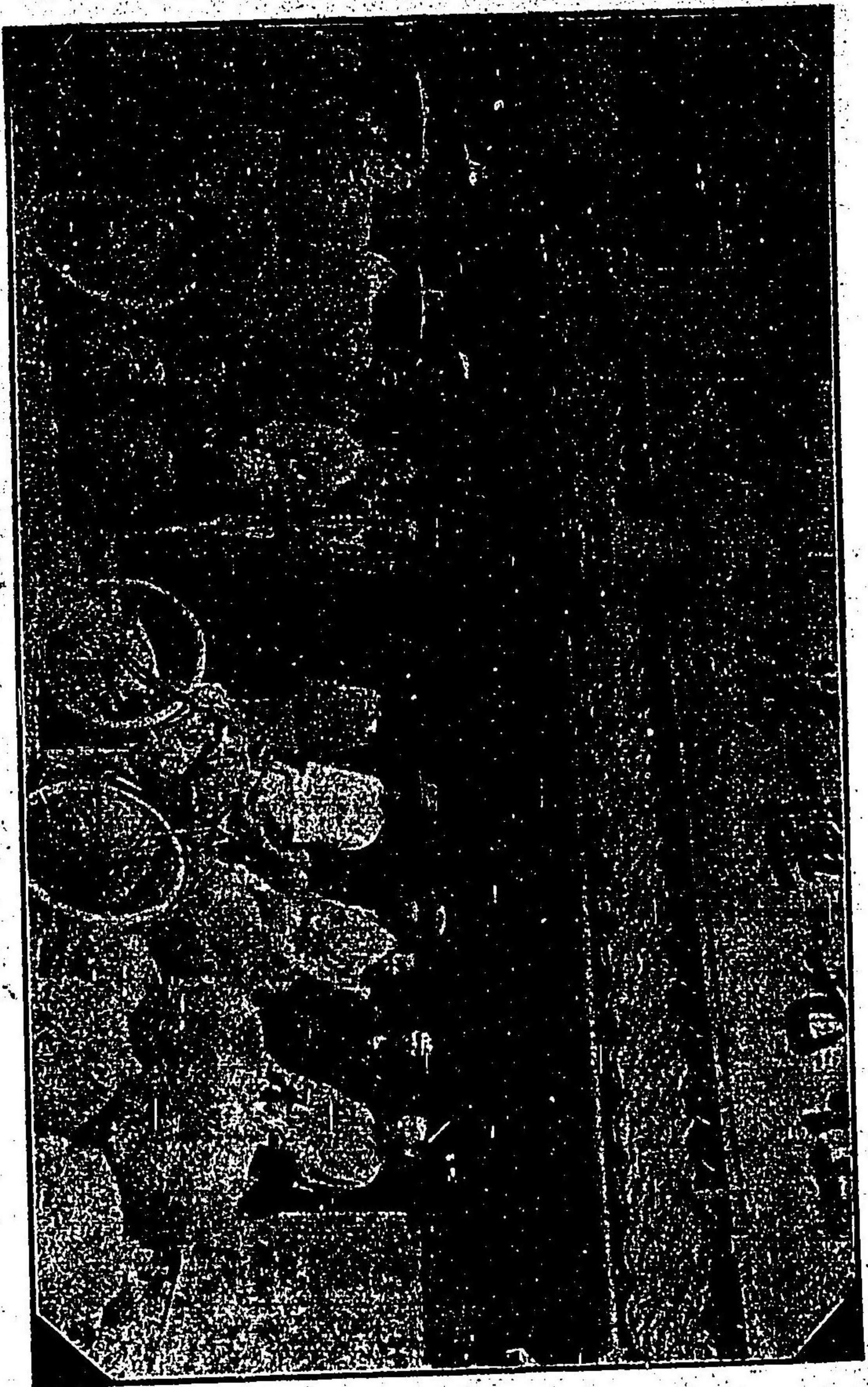
三 流

鳥取市吉方温泉場

高砂温泉旅館

御料理

長電一一六番



山陰西線鳥取驛前
店 但見 電話 二七七番

養生館は◎山光水色美◎四時眺望佳◎避暑鎮冬妙◎雪月花之奇
養生館は◎調理新鮮美味◎知名紳士商御旅館◎土地開闢裕達◎各地交通便利

◎浮世ノ極樂

御旅館 伯州東郷池温泉 養生館

山陰鐵道今ヤ將ニ全通セントス弊館ノ營業振ニ一刷新ヲ加ヘ
タリ請フ御來館ノ榮ヲ賜リ其是非ヲ御評アラシムコトナ
天下ノ廣キ温泉ノ多キモ弊館ノ如キ絶美ノ風景ト池中ヨリ湧
出スル温泉トチ完フセルハ蓋シ其類ヲ見サル所ナリ實ニ浮世
ノ極樂トハ斯ル温泉ヲ指スナラム

◎多利古社名傍近◎丁六路陸り上嵯野松線陰山◎奇

因幡濱村

温泉 鈴木旅館

井ニ屋内海水浴槽設置

當館ノ特色

- 一 客室清涼
- 一 風景豊富
- 一 魚類新鮮
- 一 諸事丁寧
- 一 調理清潔
- 一 御賄料低廉

温泉界之霸王

吉岡温泉泉

親切丁寧ヲ旨トシ經濟的ニ
破格ノ大勉強可仕候間續々
御光來ノ程伏シテ奉希上候

油屋旅館

田中屋旅館

吉岡温泉泉

鳥取驛ヨリ二里強

營業利ニ走ラズ

客ヲ遇スルニ懇切

本館

糀屋旅館

中島屋旅館

三谷東洋館

酒類釀造元

ラムネ製造販賣



特約發賣元

鳥取市瓦町

兒島商店

(電話百五十五番)

鳥取案内

鳥取市役所編纂

鳥取市

鳥取市は因幡國久松山の西南にあり、山陰道中の一大都會あり、因幡伯耆二國を管轄する鳥取縣廳の所在地にして、又歩兵第四十聯隊の衛戍地あり、舊は鳥府又は因府と稱し、因伯國主池田家三十二萬五千石の城下ありしを以て、街衢井然として都市の体裁を具へ、面積零方里八分八厘、東西三十丁、南北一里三丁に亘、維新變革の後に於ても戸數五千七百十三、人口三萬四千三百二(四十三年十月末現在)を有す、地勢平坦袋川は市を貫流して千代川と合して日本海に入る、久松山は其東北を擁し、舊時の要害を存し景勝の地を占む、山勢突兀遠望略ぼ圓錐狀を爲す、老樹鬱然蒼翠染むるが如し、樽谷源太夫の諸山其東に連なり西は湯所雁金の諸山脊背相續る春の櫻花、夏の綠陰秋の紅葉冬の雪景何れも畫境あらざるは無し、舊來交通不便の地

日市役所を開闢せり
市中には智頭、若櫻、鹿野の街道あり、之を三街道と稱し自から大路たり、今左に市内大字
名を掲ぐ

- | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 東町 | 西町 | 湯所町 | 湯所村 | 中町 |
| 栗谷町 | 江崎町 | 馬場町 | 上町 | 大工町頭 |
| 御弓町 | 庖丁人町 | 大榎町 | 掛出町 | |
| 寺町 | 吉方町 | 吉方村 | | |
| 元大工町 | 上魚町 | 片原一丁目 | 片原二丁目 | 片原三丁目 |
| 豆腐町 | 鹿野町 | 下魚町 | 下横町 | 下臺町 |
| 玄好町 | 材木町 | 鍛冶町 | 若櫻町 | 本町一丁目 |
| 本町二丁目 | 本町三丁目 | 本町四丁目 | 三軒屋 | 桶屋町 |
| 職人町 | 二階町一丁目 | 二階町二丁目 | 二階町三丁目 | 二階町四丁目 |
| 茶町 | 新町 | 元魚町一丁目 | 元魚町二丁目 | 元魚町三丁目 |

- | | | | | |
|--------------|------------|-----------------|--------|-------|
| 魚町尻 | 川端一丁目 | 川端二丁目 | 川端三丁目 | 川端四丁目 |
| 四丁目尻 | 藪片原町 | 瓦町 | 今町一丁目 | 今町二丁目 |
| 川外大工町 | 東品治村 | 北本寺町 | 元鑄物師町 | 新鑄物師町 |
| 梶川町 | 南本寺町 | 薬師町 | 大森町 | 川下町 |
| 新品治町 | 丹後片原町 | 立川町三丁目 | 立川町四丁目 | 立川村 |
| 立川町一丁目 | 立川町二丁目 | 立川町三丁目 | 立川町四丁目 | 立川村 |
| 新藏(西)町 | 大名小路(東)町 | 追廻し(西)町 | | |
| 柳藏(西)町 | 杉浦總門(西)町 | 中土手(吉方町、立川町二丁目) | | |
| 権現道(上)町 | 外吉方(吉方村) | 内吉方(吉方町) | | |
| 中町(中)町 | 大中町(中)町 | 小中町(中)町 | | |
| 檜物屋町(三階町三丁目) | 四丁目(川端四丁目) | 三丁目(川端三丁目) | | |
| 二丁目(川端二丁目) | 一丁目(川端一丁目) | 田中(東品治村) | | |

丹後町(材木町) 蛙町(下魚町) 出来薬師(薬師町)
矢津(立川村) 辻賣(中町)

名所舊蹟

鳥取城趾

鳥取市の東北久松山(海面よりの高さ)に在り、池田侯爵家の所有に屬す、満山鬱蒼として樹木茂生せり、舊二の丸趾には縣立鳥取中學校あり、又扇の御殿趾には池田家の別邸扇邸の仁風閣と號す、城より山頂に登るの道二條あり、中坂及水道谷といふ、水道谷に沿ふの道は山の西麓に沿ひ山勢急峻、本丸外門の所に至れば全形依然として存し此所より尙登ること一町餘にして本丸の跡に達す、其石垣の高さ六間餘、方六十間以上、其中央部に天守臺の跡あり、石壘猶存し本丸を抜くこと六間餘、面積方十間を有す、天正九年羽柴秀吉來伐の時、毛利方吉川經家は實に此所に籠城せり、此天守臺の趾より、四方を眺望すれば、

市街の樓屋は歴々として脚下に横はり、殊に縣廳、裁判所を始め其他重なる官衙、學校等は皆此の城趾の山麓に位置し、丸山、雁金の城砦より、兩軍對陣の形勢を見るべし、千代川河畔の平野、湖山池、資露港等を一時の裡に收め、遠く伯耆の大山、隱岐國は茫乎として雲烟の間に在り、其風致凡ならずして四季遊覽の勝地あり

鳥取城は天文十四年二月山名左馬之助誠通、高草郡布施(今の氣高郡松保村大字布施村天神山)在城の時、但馬の山名家と確執起り、但馬口の押として其臣田原某をして築かしめ、長臣輪番にて之を衛りしが、永祿六年武田又五郎高信當城に據て叛く、山名豐數之を伐ちて克たせ、高信の威勢大に震ふ、これ鳥取の地城邑とありし始めあり其より後は山名家の威勢漸く衰へ下知を奉する者なかりしか、天正元年出雲國尼子家の浪士、山中鹿之助幸盛來つて豊國に力を合せ高信を誅し、鳥取城に入り本府とし布施天神山の天守櫓を移して此の久松山の絶頂に建てたりしか其壯麗人の眼を驚かすばかりありしと、既にして毛利氏來り攻め豊國毛利氏に屬せしが、此の時に當り羽柴秀吉來伐の聞えあり、其兵威當るべからざるを以て毛利氏を變じて秀吉に通せんと議す、家臣等義

にあらずとして同心せど、豊國但馬に退去す、元祖山名時氏より十二世凡う二百六十年當國の守護職
 岡に、故を以て毛利一族、吉川式部少輔經家を城代に乞ひ請け、山名の老臣、森下、中
 村等之に従て籠城す、天正九年六月羽柴秀吉の包圍を受く、城固くして落ちず、月を累
 ねて毛利氏より援兵來らず、糧食盡き勢ひ究まりて、城將吉川經家部將と共に自盡
 し十月開城す、それより其名天下に顯はれたり、此の時宮部善祥坊繼潤に當城を賜はり
 居ること二十年其子治部少輔定行の時に至り、慶長五年關ヶ原の役に與り、石田三成と
 共に敗滅し、陸奥に謫せらる、慶長六年徳川氏更に之を池田長吉に賜ふ、長吉本城を改
 築す、天守閣は三重三十八棟ありしが長吉雷火を虞り二重櫓に改造せり、又曲輪を建
 て石壘石壁橋に至る迄今の構は大凡其の時の普請の跡にて、九ヶ年の租を費し、市井及
 外濠の如きは十數年の久しきを經て、全く備はりしと云ふ、長吉在城十七年にして封を
 備中に移さる、元和二年池田光政因伯二國の大守に封せられ、大に國政を釐革し因伯兩
 州の面目を一變、寛永九年八月光政備前岡山に移對せられ、從弟池田光仲岡山より替
 りて因伯二州を領す、

貞享三年天主閣雷火の爲に災す、元録五年十一月十一日落雷の爲の焼失し、中坂門を延
 焼す、享保元年外城を築く同四年功竣る、享保五年四月吉方町より出火し本城外城
 諸屏舍門櫓盡く延焼し市街の大半烏有に歸せり、之を鳥取の大火とす、同六年再び城廓
 を經始し三年を費して成りど、池田氏歴世の居城ありしが、慶應三年幕府徳川氏大政を
 奉還し、次て明治二年池田慶徳版籍を返上す、同四年陸軍省の所轄となり大阪鎮臺姫路
 營所分營となる、同十一年建物入札拂となり同十二年悉皆毀城す、而して其敷地は總
 て所有に歸せり

鳥取城主交替年表

天文十四年二月	録初	十九年	間	布施山名家長臣輪番
永録六年	マデ	十九年	間	武田又五郎高信
天正元年	マヨリ	十一年	間	山名豊國禪高
同 正 九年	マヨリ	九 年	間	吉川經家
同 正 十年	マヨリ	一年	未 滿	毛利家城代

天正九年	マヨリ	二十年	間	宮部善群坊父子
慶長五年	マヨリ	十七年	間	池田長吉
元和二年	マヨリ	十六年	間	池田光政
寛永九年	マヨリ	二百四十四年	間	池田家
明治二年	マヨリ			

吉川經家の墳墓 久松山の背後、岩美郡中ノ郷村大字圓護寺村(俗稱五反田)の田圃中
 在り、此地特産の圓護寺石にて作られたる五輪塔にして、凡方二間半余高四尺余の石
 壘の上に在り、總高三尺九寸其側に高二尺四寸五分の同形の五輪あり、是恐らくは殉
 死者の墓なるへし

吉川經家は、式部少輔と稱す、吉川元春の家臣なり、毛利の威を中國に振ふや、鳥取城
 主山名豊國之屬す、天正九年羽柴秀吉織田氏の命を受けて、山陰を經略するに及で豊
 國歎を秀吉に通せんどす、長臣森下道裕、中村春次等之に従はず、豊國遂に奔りて秀吉
 に投ず、道裕春次等相識して毛利氏に請ふに主將を得んことを以てす、經家偶々因幡よ

在りて諸城を檢察す、毛利氏乃ち之に命じて兵を率ひ鳥取を守らしむ、城兵四千餘、經
 家才文武を兼ね智三軍に絶す、資性寛厚仁義を以て軍政を行ふ士民心服す、秀吉來攻の
 報あるに及んで經家乃ち鹽谷周防に雁金山を奈佐日本之助に丸山を守らしめ壘を築きて
 本城と相連絡す、六月秀吉果して數萬の大軍を以て因幡に入り鳥取城の背後本陣山(大
 關ヶ平と稱す)に陣し兵を分て鳥取城を圍む、城兵殊死して拒ぎ戦ひしかば、秀吉容易
 に抜く能はず、壘を築き糧道を奪ふて長圍の策を爲す、城兵漸く苦む、既にして宮部善
 群坊奮戦して、本城雁金山の間の一粟所を奪ひ以て彼此の交通線を斷つ、守將鹽谷去て
 丸山城に入る、二城孤立す、秀吉機に乗して圍益々急かり、十月中旬に及ぶも毛利氏より
 援兵來らず、城中糧食全く盡き士卒飢れて起つ能はず經家之を視るに忍びず、遂に
 其の重臣福光小三郎を敵陣に遣はし、自殺して城を開き以て士卒の死を宥めんと請ふ、
 秀吉之を殺とし答へて曰く、經家は毛利氏の客將なり罪輕し、森下中村の輩は主を逐ひ
 て我に敵す、其罪宥す可からず三人自殺せば則ち士卒の死を免さんと、經家之に従ふ秀
 吉淺野長政をして酒肴を贈りて多日籠城の勞を慰せしむ其書に

御使札之旨令ニ披露一畢、其城御兩三主、以二命一司三相代ニ衆命一之結構、秀吉甚以感被申、即柳樽十荷行器十荷着五種被二階入一候、御望之儀、爾不可有ニ相違一之通御兩三人之御意可被申候恐惶謹言

十一月二十三日

淺野彌兵衛尉

福光小三郎殿

參

回章

としるしたり、經家大に喜び、げに敵ながら羽柴筑前は、無雙の名將かな、しからば明後廿五日檢使を賜はりて自殺すべし、さるにても城中を汚さんことは、武士の本懐からずとて、酒樽を開きて城兵と飲飲し、二十五日山下の眞教寺に入りて自殺す、經家の臣福光小三郎、扈從坂田孫次郎之に殉す、中村森下從て自刃す、堀尾茂助吉晴槍死たり、丸山の守將亦自殺す、是に於て鳥取城及丸山城共陥る、秀吉狀を具して經家の首を

扇邸

信長に送る、信長之を義とし禮を厚くして安土の一禪院に葬むりしといふ、吉川經家の事は備中松山よ於ける浦水長治の事と千古の双烈と稱すべしなり。

久松山の麓、鳥取城趾の地にあり、舊藩主池田慶徳前藩主池田慶榮の未亡人の住所として新築あり、所廢藩後舊墟と云れり、明治四十年五月、皇太子殿下山陰道諸縣に行啓したまふの鳥取市民、殿下の爲めに御旅館を建設せんことを欲し、土地の使用を候爵池田家に請ふ、候爵其費額の寡からず、市民の負擔輕からざるを慮かり、乃ち自から資を投じて之れを建設し、市民に借して以て、殿下の御旅館に充用することを得しむ、市民其徳に感泣せざるなし、此地舊藩主御殿と稱す、東郷海軍大將行啓に供奉せられ池田家の需に應じて本館を仁風閣と命名せらるる亦扇の縁故に基けるあるべし、館は宏壯ある西洋風の建物にして結構壯麗鳥取地方に有らざる所あり、庭園久松の古城山を對し満山の叢翠滴らんと欲す眞に紅塵以外の別乾坤なり。

最勝院

湯所町にあり、眞言宗高野山多聞院末にして養壽院と稱せり、元山頂にありて如意山久松寺と號し天長九年の開基なりと傳ふ明治三年寶壽院と合併し最勝院と改む、寶壽院は和銅二年法道仙人美濃國に一寺を創立し寶藏院と號す、天正年中池田輝政の祈願寺となり、池田氏に従ひ姫路岡山を経て當地に移り寶壽院と改號す、護摩料二百俵を給り維新の際に至る迄は宏壯なる伽藍寺町一行寺の後に在しが、明治三年養壽院に合併の藩命を受け今の地に移轉せり、本尊藥師如來は法道仙人作といふ、涅槃像、十六善神、不動寶冠等は皆名作なり、其他什寶多し、境内眺望に富み藩士正牆蕪(號通處)等同志と此に半日亭を設け雅遊の地と爲し其八勝を選び各詩歌を題せり

古杉落月。

淺池遊魚。

大山遙白。

霞湖遠帆。

荒祠夜雨。

内田晚鷺。

後莊綠樹。

古巖老松。

係る

臥龍松ノ碑

寺稱養壽院、在久松城之近北。舊號如意山久松寺、相傳天長九年、弘法大師創此寺、爾後經七百四十餘年。天正中豐太閤之征此土也、城陷、寺亦爲烏有、及吾藩封興禪公就國、繼絕興廢百度、惟新、寺遂復舊觀、庭中有一古松、生巖上、亦傳大師所手栽也。播根屈曲而樹不甚高、枝皆下垂其最大且長者、蜿蜒數丈斜亘池水。猶龍臥於碧雲也、實千年外物、賴免當寺兵燹、至今貞堅繁茂、鬱々晚翠、不改其色矣。古者秦皇封泰山松爲五太夫、其人既亡樹亦失傳紀、然則松之壽非久、而人令之壽且久也、今此松受吾藩繼興之恩、長治國家雨露之澤、何啻周代甘棠之遺愛而已乎、後是幾百年。城之與寺、不蹇不崩、以比榮於此松、則久松之名終不虛也、寺係於余家香華院、歲時展墓必憩其下、風吟吟嘯撫之、盤桓不能去、現住宥正法印、將立石其傍以標之。乞其名與記、余不敢辭、乃名以臥龍、且書之以使後人知勿剪伐之意云爾。

芭蕉の笠塚は芭蕉翁の笠を忘たる所なりと俗傳し。ばせを翁笠塚と刻す、泉池の傍にあり

正塔通處の墓も此寺内に在り

雁金城趾

市内湯所町愛宕山の頂にあり、天正九年吉川經家鳥取籠城の時、丸山へ出城を構へ其聯絡として、此所に城を構へ本城と連絡を保てり、但馬國産生の諸寄に、城主、鹽谷周防は曾て羽柴秀吉一持城を攻め落され、流浪して鳥取へ來り居けるが無二の毛利方ありし故これを守將として此雁金山を守らせたるに、宮部善祥坊に本城との通路を絶ら断られ遂に城を棄て、丸山城へ逃籠り此の背通りには宮部の手勢を置きて警守せりと云へり。山腹に愛宕神社あり眺望頗むる開路にして風光絶佳あること久松山と併び稱せらる。

丸山城趾

市の北端湯所村に在り、袋川の右岸田圃の中に孤立せり、天正九年吉川經家鳥取籠城の時、此丸山は袋川の咽喉に在て兵糧運送の要地なれば、城中より奈佐日本之助勇を以て稱せらる

に士卒二百騎ばかり差添ひて楯籠らせ、雁金城より連々尾通りに人數を置いて聯絡せしが、秀吉着陣して本城より雁金城を経て丸山城まで通路自由なるを看、先づ其通路を断つが爲め宮部善祥坊をして本城と雁金山の間ある道祖神取を攻めしじ、鹽谷周防は支ふる事を得ずして遂に丸山城に逃げ聯絡断絶遂に鳥取城落城せり開城に及び雁金丸山の兩城將は吉川經家自殺の後切腹して城に殉せし烈士なり其墓は其山下に存せり。山頂平坦北海千代川湖山池の湖川海を一時も收め眺望佳絶あり

關白秀次陣所趾 善入寺の堤

湯所村善入寺の堤の東よなだれたる尾通りを山森と字す、此の山の脊通りに一丁余を隔て要害の趾二ヶ所あり、奥の方秀次の陣趾なるが、尾崎の字を「センカウ」と云ひ鳥取の城主山名禪高の陣取りし趾にてしか名を傳ふるにや、其頃秀次公尙幼年にて、ね萬君と稱し又禪高は秀吉に志厚く君臣合体せしめて、長臣等謀を合せて城主禪高を追出し別に毛利より大將を請じ籠城せし故、城主は却て攻手の中に加りて有りしといへり。

善入寺の堤は古名は丸山のつゝみといへり雁金尾の東の谷隘にあり、勝景の地にして遊覽するもの多し

摩尼寺

岩美郡中ノ郷村大字覺寺村にあり、鳥取驛より一里十八丁、天台宗にして本尊は帝釋天あり仁明天皇の御宇比叡山第四座主慈覺大師、山陰に遊錫して此山に登り佛法弘通の勝地あるを認め岩角を穿ち堂宇を建立し、帝釋天を安置し、喜見山摩尼寺と稱せり、爾來堂宇頗ふる輪煥の美を極めしが、天正八年羽柴秀吉の兵燹に罹り、後數年今の諸堂を再構す、鳥取附近に於ける最高峰千〇二十九尺、中腹にありて渺茫たる北海を瞰下し眺望濶なり、因州第一の場靈にして諸人の崇仰凌からず、遠近の參詣人終歲絶わす、毎年陰曆六月廿六日より三日間の會式には賽人群集し、參籠者數萬に及ぶを例とす

大間ヶ平 (本陣山)

栗谷の奥に在り、久松山の東南に峙らたる峰を本陣山といふ、羽柴秀吉鳥取城を攻んとて其勢都台三萬餘騎を齊ひて天正九年六月當國に討入り、此山を本陣と定め十月迄の間在陣せし舊趾あり、今是を御本陣或は大間が平と稱す、營壘の趾存し、當時公に用ひしといふ御茶の水といふ涌泉などあり

禰野神社

市内上町字禰野に在り、鳥取驛より十五丁縣社にして舊藩祖の徳川家康の靈を祀り東照宮と稱せしが、維新の後相殿に舊藩主池田忠雄、同志雄、同光仲、同慶徳の靈を合祀し更に禰野神社と改稱せり、慶安三年九月池田光仲の創建にして、本殿、幣殿、拜殿を始め隨神門、中門等結構壯嚴其境内又宏大にして、其面積五千六百九十五坪、溪水清く滾々として社前に流れ、飛瀑岸に懸り、幾百年の老杉古松蒼鬱として四面を掩ひ晝尚暗く、幽邃にして

て深谷に入るの思ひあり、三伏の交人をして炎威の何物たるを覺せざらしむ、縣下有數の靈地あり、昔は權現祭又は十七日拜みと稱し祭禮最も莊重嚴格にして、其の賑はひ因伯三州之れに及ぶものあり、其行列は軍旅凱旋に擬し神輿と古市の松原に渡御し、藩主自ら祭事を執行せられたり、大祭は五月三十一日、六月一日の兩日にして別に、春季祭四月秋季祭十七日を執行す、又寶物には、尊純法親王筆東照宮の額、狩野探幽畫白鷹の額は殊に名品にして、探幽畫三十六歌仙極彩色額面、宗近作古劍一口、古甲冑其他枚擧に遑わらず。

鳥取招魂社

市内上町に在り、鳥取驛より十五丁、後は楊路の幽邃を負ひ前に御宮谷の開闢を控む自から一區の公園をなせり、社は明治元年戊辰奥羽の役舊鳥取藩士の官軍に従ひ戦死せしもの及び西南の役、明治二十七八年の戦役、明治三十七八年戦役に於ける管内戦死病歿者及維新前後國事に殉じたる志士千四百七十六名の靈を合祀せり、明治三年舊藩主の創建にし

てもと岩美郡中ノ郷村大字濱坂村にありしが明治十二年本市西町場今物産陳列の所に遷座し同廿年また現今の地ニ遷座せり、明治八年より官祭に列せられ府縣社の上に位して菊御紋章を用ふることに制札の書式建設方等總へて官國幣社と同じ、春花秋葉騷客の杖を曳くもの多し別に有志の企に成りたる、彰忠會と稱する財團あり、専ら招魂社の祭祀を翼賛せり、近年有志者碑を立て其事を表したり、其碑に曰く

樽溪招魂碑

鳥取市長尾崎君武久以書來請曰明治三十七八年之役我同郷人從軍千百餘人而陣亡病歿者五十九人鳥取市民欲建碑於樽溪招魂社以傳其事願撰之文此役也皇師所向百戰百捷靡堅不挫靡銳不破威武外揚光輝遠播豐功丕績實開國己來所未有是雖因

今上英武

列聖靈祐而非陸海軍軍人忠義奮發致死報國安能至此我郷人若須知中佐慘烈殉節若加納中尉先死敵彈其他或奮鬪橫屍或艱苦殞命忠烈勇武前後相踵皆壯年有爲之士是市民之所欽仰悼惜而有此舉也夫樽溪者鳥取藩祖祠廟之所在而招魂社與之相接昔藩祖尙武訓士三百年於此諸士重義輕命視死如歸以發揮其所養藩祖而有靈則其喜可知矣

嗚呼諸士既恭 聖朝之勅褒而其碑與藩祖祠廟鄰千載而不朽可謂死而有餘榮矣予生於

柳溪幼時所觀溪山秀麗猶在目睫想豐碑隆然立干紫嵐翠樾之中也乃係以銘曰

樽溪之山 招魂之祠 爰卜靈域

乃建豐碑 赫赫武勳 煌煌忠烈

石兮弗泐 銘兮弗滅

陸軍大將正三位勳一等功三級 男爵 川村景明篆額

湯本文彦撰文

明治三十九年四月

長田神社

市內上町にあり鳥取驛より約十五丁、縣社にして事代主神猿田彦神を祭り相殿には譽田別尊菅原道真公を祭り、創建年月は詳ならずと雖舊と久松山に鎮坐し鳥取鎮守の産土神として舊藩主池田家世々崇敬厚かりしが慶安三年に至り現今の地に遷座せり、境内に清泉あり長田水といふ寒冽にして之を掬すれば宛かも氷雪を含むが如し

栗溪神社

市內栗谷町にあり村社にして鳥取驛より約十七丁、須佐之男命を祭る、舊正一位牛頭天王と稱せり、當社は往古鳥取郷内の舊社にして境内老木繁茂し幽靜なる靈地あり

渡邊數馬の墓

市內栗谷町興禪寺境内堂後の邱上よりあり、鳥取驛より十六丁、數馬は舊備前藩士渡邊數負の子あり、其姉の婿荒木又右衛門の扶と得て、父の仇河合又五郎を伊賀の上野に討取り美名を後世に遺したる勇士なり、復讐の後因州侯に仕へしと云ふ、其子孫猶存せり、寛永十九年十二月二日享年三十五にして歿せり

荒木又右衛門の墓

市內新品治町玄忠寺境内にあり鳥取驛より約十七丁、荒木又右衛門は伊賀國阿拜郡荒木村の人、柳生但馬守、宮本無三四に就て劍法の奥義を極め、當時勇武絶倫と稱し殆んど其右

に出づるものあり、郡山侯に仕ふ、寛永十一年十一月伊賀の上野に於て妻の弟、渡邊數馬を扶け其仇敵河合又五郎の一黨、數十人を一手に引受け、奮闘激戦遂に之を壓にし、天下に義勇の名を轟かしたる英傑あり、碑面に「秀譽行念禪定門寛永十五年八月廿五日歿」とあり時に享年四十一、上野復讐を以て其名海内に聞へたる名士なり

一説に河合又五郎は渡邊數馬の弟又七の仇にして父の仇にあらず、且荒木又右衛門は數馬が妹婿にして姉婿にはあらず而して又五郎は備前岡山の城主松平宮内少輔忠雄(後々國替となる即ち我が)即ち君公を欺きたる大罪人にして數馬が弟の仇を討ちし一面其主君の懇憤を晴らしたるなり事は老話集と云ふ古寫本に森村道筑の覺書とて載せありと道筑は大和郡山松平下總守の家臣にして荒木又右衛門の朋友なりしとぞ参考の爲め附記す

朝市場

市内鹿野街道筋川端四丁目より、鹿野橋を経て、對岸南本寺町に至るの間(川端四丁目より鹿云ひ南本寺町)毎朝市を張りて蔬菜果實の類を鬻ぐ、其群衆雜踏名狀すべからず、鳥取名物の一たり

眼白不動明王

市内南本寺町、鳥取驛より七町(寶珠院の本尊にして、奥州不動寺本尊、東京小石川新長谷寺本尊と共に、日本三休眼白隨一の靈像にして、興教大師作といふ、往古三河國松平村に鎮座し、圓明寺と號す、東照宮の歸依處からず池田光政亦深く信敬せられ祈願寺となり池田氏に従ひ、姫路岡山を経て當地に移り寺號を圓城院と改む、安政年間勸修寺の宮より御院室寶珠院を賜ふ、維新後一院一稱の制に依り今寶珠院と號す、毎年二月會陽を執行し、加持福木を授く、其會陽殷盛にして、境内立錫の餘地あり

常忍寺

因幡誌の編者安倍恭庵及大儒伊良子大州の墓碑境内にあり

岩美郡富桑村大字西治品村の北側にあり、日蓮宗下總國正中山法華經寺の客末にして、一尊四菩薩を本尊とす、當寺の創建は紀州侯頼宣卿の母堂か萬の方(家康公の室)法華信心の大行者にして養珠寺(紀州)本遠寺(甲州)の二箇寺を建立し今一箇寺の日常上人の生國ある

當地に建立せんとすの念願ありしかど之を果さず其旨を孫女(池田興禰公の室)に遺言したり乃ち日潤上人紀州より来て栗谷町芳心寺に住職し寛保元年(萬の方)の遺旨によりて、此地に一寺を建立し鷲峯山と號せり、お萬の方より傳來の寶物及歸依者寄進の什寶數多あり、中にも絹本着色普賢十羅刹女像(金岡筆或は唐五道子筆とも云ふ)は明治三十七年一月國寶に編入せらる、尙經藏には大藏經二千四百部及び其他の佛書八千餘部を藏すといふ

聖神社

岩美郡富桑村大字行徳村にあり、鳥取驛を距ること約十町郷社にして、彦火瓊瓊杵尊、彦火火出見尊を祭り事代主命と合祀す、創建年月詳ならず、現今の社殿は寶永七年の造營として、舊社號は聖大明神と稱す、社殿建築壯麗おして境内千四百坪巨樹森然蒼鬱として林をなせり、大祭は五月十日十一日十二日の三日間之を執行し、十一日には神輿渡御あり、當社は市内最繁華ある廿七ヶ町村の氏神なるを以て祭禮頗る賑はしく參拜者の群集夥たしくして雜沓云々ん方おし蓋國內第一の大祭典あるべし

眞教寺

市内川端一丁目におり鳥取驛より約四丁、浄土宗京都智恩院末にして天文十四年(達和尙)の創建にして當城山水道谷城戸の内におりしが、後智頭街道總門附近に轉じ光政公入國の時今の地に移りしといふ、天正九年鳥取籠城の時には城山に在りしを以て吉川經家は、此方丈にて自害せる故を以て、今も其位牌あり、總高二尺三寸二分、摺製のものにして、裝飾華麗、良工の丹精を凝らせしものにて、表面に

平等院殿前吏部兼因幡權守寂輔空心大禪定門

とあり、裏面に左の銘あり

吉川駿河守元春親族石州福光城主吉川式部少輔藤原經家牌

天正辛巳十月廿五日代諸軍士於鳥取城中自殺

殉死家臣福光小三郎若鶴甚右衛門與力坂田孫次郎

天明乙季春經家十一世孫防州岩國世郷吉川衛士直兩再造

又殉死者の位牌を櫨製として、總高一尺二寸七分表面に左の文字あり、

福光 小三郎 法名 道源

若鶴 甚右衛門 法名 祐清

坂田 孫次郎 法名 道順

裡銘に「天正辛巳十月廿五日從吉川式部少輔經家於鳥取城中自殺」とあり。

龍宮の釣鐘 天竺地藏

市内寺町(鳥取驛より十二丁)本願寺樓門上の釣鐘といふ、釣鐘は浪士和田五郎右衛門範元氣高郡伏野の海邊にて龍女に逢ひ其願を受け、之を全寺に納めたるものなりと傳へ、今猶海水の浸蝕せる痕皮貝殻の附着せるを見る。(伏野の海邊鐘が崎と云へる所は其當時の遺跡なりと傳ふ)當寺は天正九年鳥取城主宮部善祥坊榮譽和尚より歸依して創建す、本尊阿彌

陀如來は、聖徳太子の眞作といふ、天竺地藏の金銅佛を始め五十餘の地藏は世人の信仰深く、祭日は參詣の者群集して、境内雜沓を極む

吉方温泉

市内吉方村より鳥取市元標より十丁鳥取驛より五丁、鹽類泉にして無色透明なり、溫度百二十度、明治三十七年十一月鑿井の際期せずして温泉湧出し、爾來數處に噴泉を見るに至りたり、目下、高砂温泉、鳥取温泉、金加温泉、吉方温泉、丸福温泉、樹の枝温泉、井筒温泉、三階樓等の浴場旅館料亭あり、就中鳥取温泉は宏壯にして浴室完美せり、此地は鳥取の郊外に接し萬頃の田圃を隔て、岩美、氣高、八頭、諸郡の連山を望み、頗る風趣に富み、浴客日々賑へり
本温泉に對する内務省大阪衛生試験所の定量分析は左の如し、慢性粘膜炎加答兒(婦人生殖器病)、癩癧、皮疹、佝僂質斯、及呼吸器諸病に効能ありといふ、

クロールナトリウム (食塩)
 硫酸カリウム
 硫酸ナトリウム (芒硝)
 硫酸石灰
 硫酸カルチウム (石膏)
 炭酸ナトリウム
 炭酸マグネシウム
 炭酸鐵
 酸化鐵及礬土
 硅酸
 遊離及半結合炭酸

高砂温泉

一、四二一
 〇、一〇四
 一、四八五
 〇、四四二
 〇、四一三
 〇、〇六五
 〇、〇一〇
 〇、〇九九
 〇、二二三

鳥取温泉

一、六八六
 〇、三六九
 一、七七六
 〇、三二九
 〇、五二二
 〇、〇五五
 〇、〇〇四
 〇、三四〇
 〇、一四九

「マンガン」「アルミニウム」
 「ナトリウム」「硫酸、硝酸、」
 「イ」「ブローム」等各濃度

硝酸、硝酸、「ブローム」
 「ローア」「マンガン」等各濃度

源太夫山

市内立川町一丁目廣徳寺東方の山にして、廣徳寺、觀音院より上るべし、山脊稍平坦なる所に老松一株あり、びんたい松と稱す、眺望絶佳にして、鳥取の全景皆眸中に入る、遊人多し

大雲院

市内立川町四丁目に在り鳥取驛より約二十丁、慶安三年池田光仲の創建に係り、其従弟公侃を以て住職とせし天台宗の名刹にして、元と東照宮の別當にて禪溪にありしが、明治二年神佛混淆を禁じ東照宮を禰溪神社と改め、當寺を今の地に移轉せしめ、末寺靈光院の本堂本尊を以て當院の本堂本尊となす、境内坪數千五百六坪にして本堂(本尊彌陀觀音勢至三十三所觀世音菩薩)及大師堂、文殊堂、地藏堂、辨天堂、秋葉堂等あり、靈光院は有名なる米村慶治の建立せし寺あり、寶物古器物古文書等數多あり、國寶第一種なる惡心僧都作毘沙門天及嵯峨天皇、後光嚴天皇、聖武天皇、二條院の御宸筆等枚舉に遑あらず、中にも阿彌陀三尊木像は名品なりといふ

歩兵第四十聯隊

市内立川村を距る約四丁鳥取驛より約三十丁、第十師團歩兵第八旅團に屬す、明治廿九年五月一日を以て當聯隊の編制を定められ、全年十二月一日聯隊本部及岡山聯隊區より入營の新兵即ち廿九年兵を以て、第一大隊を設置せられ、兵營落成迄大阪歩兵第二十聯隊内に併置せらる、全卅年四月廿一日大阪出發全廿五日鳥取に着營し五月一日轉營式を舉行し全十二月一日新兵入營し第二大隊編制、全卅二年三月廿四日軍旗を授與せらる二十八日鳥取着四月三日軍旗祭を舉行せらる、全十二月一日三十一年兵入營し第三大隊編制せられ聯隊完備せり

明治三十七八年戰役に出征し凱旋の後、明治四十年十月より明治四十二年九月迄、滿州守備の任に當り歸營す、

歩兵第五十四聯隊（岡山）明治四十年十一月十二日より全四十二年十月廿三日迄在營せり

因幡國府趾

岩美郡宇倍野村大字宮下村は、昔時國廳の有りし所にして、南都の時大伴家持の國守となりし時新年に、賀庭を開らさ「新らしき年の始めの初春の今日ふる雪のいやしけさこと」と詠まれし所にて、萬葉集に載せたり、其後在原行平朝臣、因幡の守として此に在り、「立わかれいなはの山の峰に生ふるまつとし聞かば今かへり來む」と詠せしと傳へたり、稻葉山は其東に在り、

因幡山 因幡川

岩美郡宇倍野村にあり、鳥取驛より一里十丁、一に宇倍野と稱す、宇陪神社、池田家の墓所は、皆此山麓にあり、山嶺は高原にして短草斐々として、眺望太だ秀麗あり、因幡川は源を雨瀧に發し、沿道の諸溪流を集め、西北鳥取を貫て袋川とある、此附近の地往古稻葉郷といふ、古歌に詠せられし名所あり、

藤原定家

忘れまん松とまつけそ中々にいなはの山の峰のあそ風

藤原為家

立かへりいまやいなはけ山風もまつに音する初かりのころ

後京極攝政

旅寝する花のした風立別れいなはの山の松ろかひなさ

俊成母

さらに又まつにもつらさ夕かないなはの山のあさ風のころ

因幡川 歌人不知

いなは川いさとし終にいひはてはあかれて世にも住まよしものを

池田侯爵家墳墓

宇倍野村大字奥谷村にあり、鳥取驛より一里十町、境内約二萬坪にして初封光仲以下歴代の藩主及家眷一族の墓所並び立ち規模頗る宏壯なり。

宇倍神社

岩美郡宇倍野村大字宮下村にあり、鳥取驛より一里十町、武内宿禰を祀る國幣中社あり、因幡の一の宮にして延喜式に所謂宇倍の神是あり、古傳に仁徳天皇五十五年春三月、武内宿禰三百六十餘歳、因幡の國守として、この國に下向したまひ、龜金の丘に双履を殘し置きて、世を去り給ひしといふ、今當社の後阜を、龜金山と云ふ、方五尺許り石垣を築く、是れ双履の跡ありと傳ふ、本社は大化四年の勸請に係り、結構宏壯なりしが、天正年間山中鹿之助の爲に燬かれ、古來の寶藏悉く烏有に歸し、今存するものなし、社殿は明治三十一年の改築にかくり結構壯嚴あり、例祭は四月二十一日にして、現今の五圓紙幣、宿禰の像と共に其圖を載せたる宇倍神社は即ち之れあり、

國分寺

岩美郡宇倍野村大字國分寺村にあり、鳥取驛より一里二十丁、聖武天皇天平十三年、每國に國分寺と御建立の事日本紀に在り、當時の寺領墾田一千町ありしが中古兵亂の爲めに類

廢して今は僅かに一草庵を存じ之を國分寺と稱す、本尊藥師如來あり、傍らに大塔の礎あり、方二間餘其の南の方古刹の趾あり、土俗黄金寺といへり、金光川寺の訛にて國分寺は金稱な國分寺の遺址あり、安永年中里民此地を耕し錫皿九枚紫銅の大花瓶等掘出せりと云ふ

安德帝御陵參考地

岩美郡宇倍野村大字岡益村に在り鳥取驛より二里十九町、畏くも人王八十二代の御位に即かせ給ひたる、安德天皇には、昔壽永の戦ひに、平家の敗績せしかば、二位尼と共に西海の波に沈みて、崩御在ししたりとの事は、歴史に依り、稗書に由りて、皆な人の知る所なり、然るに之れと相反し、其時帝は二位尼と共に危難を避け、一葉の漁舟に召して、赤間ヶ關を過ぎ、當國賀露の港に御着船の上、此邊りに忍ばせ給ひしが、後ち終に崩御在らせられたるに由り、茲に葬り奉りしとあり、故に事上聞に達し、宮内省にては、御陵墓參考地とせられたり、尙此所より少一隔りたる所に、新井の石船と稱するものあり、這は二位尼と葬たる古墳なりと云ひ傳へり

倉田八幡宮

岩美郡倉田村にあり鳥取驛より一里十五町、郷社にして應神天皇、仲哀天皇、神功皇后と合祀す、創建年月詳ならず、壽永文治の頃此地に勸請して社殿壯麗を極めしが、天正年間兵燹に罹り、慶長年中池田氏再築せられしと云ふ、準表より隨神門に至る賽路の左右に松並木あり、門を入れば正面に本殿、幣殿、拜殿其右に神樂殿あり、又本殿の傍に銀杏の大樹あり、廻り三丈、高さ十三丈餘之を神木と稱す、境内の風致幽靜閑雅あり

大野見宿彌命神社

郷社にして氣高郡海徳村にあり、鳥取驛より二十七町、舊記に據るに野見の保徳尾村田圃中の一丘林中にあり、其社地を丸山と號す、土俗徳尾の森と云ふ、祭神は本と出雲の人なり、垂仁帝の朝に厩早と角力して之に勝ち其賞として此地を賜へり、此郷を野見の保と云ふは、蓋當初の領土あるを以て祀て神となせるならん、爾來二千年に渉る舊社にて、古樹蒼鬱白日猶昏し

賀露港

賀露港は鳥取を距る一里廿丁、湖山停車場より約三十町、千代川の河口に當り、古來因州に出入する旅客貨物の關門として名高き所なり、鳥ヶ島、宮ノ嶋其の前面に横はり、北海の波濤を防ぎて船舶の碇繋に便す、戸數五百四十、人口三千餘、村民多く漁業を事とし、鰈、鰯、蟹及蠨等の産出頗る多し。

賀露神社

氣高郡賀露村に在り湖山停車場より約三十丁、縣社にして大山祇命、猿田彦命、武甕槌命、木花開耶姫命を合祀す、口碑に據れば當社は地神第一の神にして初の大山祇命を伊豆三島の社より勧請し、賀露、秋里、江津、晚稻、南隈の五ヶ村の總鎮守とし、後ち猿田彦命以下の諸神を合祀すと、然れども年代遠邈として攻ふべからず、又傳ふ勝寶六年吉備大臣唐より歸朝の途次、難船して鳥ヶ嶋に漂着せしことあり、故より其避難の紀念として大臣薨去の後、其靈を茲に合祀したりと、境内の風光幽靜閑雅にして海陸の眺望亦秀麗なり。

湖山池

氣高郡湖山村の南方に在り、湖山停車場より約十町、湖山、松保、大郷、末恒の四村に亘り、東西一里十四町、南北一里四町、周四三里廿七町と稱す、池中に、青島、團子島等の小嶋所々に点在し、西南に岡陵起伏して波狀を成し、東北には、田圃を控へ長洲白沙を帯び風光清絶あり、且つ禁獵地あるを以て、鷗鷺蘆荻の間に閑眼を貪り、舟子網を擧げて、細鱗を逐ふの風光、恰も畫幅を展望するの觀あり、東北に二川あり、一を新川といひ、一を古川と呼ぶ、池水茲を流れて、賀露港に入る、鳥取附近の一大勝區にして、最も舟遊に宜し。

和泉式部産水の井

同胞衣塚、大江の屋敷跡

湖山池の東北隅湖山村にあり、傳へ云ふ、式部の父、大江雅輔此地にあり、式部も亦此に

生ると、而して湖山池を霞湖と稱するは、湖山村を霞の里と云へるに據りしものよして、和泉式部の「春たては花の都を見てもあは霞の里に心をぐやる」と云へる歌に基けりと謂ふ。

布勢城趾

布施城趾の屋形は氣高郡松保村にあり、もと天神山の城と稱す、文正中山名勝の創築に係れり、因幡一國の治城として、子孫八代百餘年間、此地に居城せり、山腹に日吉神社あり、眺望佳絶にして、遊覽するもの多し、之れより南方一里餘にして、湖畔の山上に吉岡城趾あり。

吉岡城趾

吉岡城趾は、吉岡將監定勝の居城せし所にして、鳥取城陥落の後に至るまで、秀吉の大軍に敵したり。

吉岡温泉

氣高郡吉岡村にあり、鳥取より二里三十丁、上の湯、下の湯、二泉ありて浴槽を設く、上の湯は鹽類泉、下の湯は硫黄泉に屬す、發見年代は考ふべきあさも、水祿の比、吉岡將監の開きしより、年々繁盛に趣きたると、往來の便にして、鳥取市に近き爲め、浴客常に絶へず。

白兔神社

氣高郡末恒村大字内海村の海邊に傍へる山内にあり、鳥取より三里十町、古事記に載せたる神話中の兔を祀れる社にて、地勢も能く合へり、中古社殿廢滅したりしに、龜井茲矩鹿野城主たりし時、靈夢に感じて、之を再興し、其後池田家時代に及ても、之を尊敬し神田を寄附し、大鬼大朋神と呼べり。

古事記に曰く

大國主ノ神。亦ノ名ハ謂ニ大穴牟遲ノ神。亦ノ名ハ謂ニ葦原野許男ノ神。亦ノ名ハ謂ニ八千矛神。

亦ノ名、宇都志國玉ノ神ト并セテ有リ五名一

故此大國主神之兄弟。八十神坐。然也。此國者避於大國主神之所。以避者。其八十神各。有欲婚稻羽之八上比賣之心。共行稻羽時。於大穴牟遲神。負帛。為從者。率往。

於是到氣多之前時。裸。菟伏也。爾八十神謂其菟。汝將為者。浴此海鹽。當風吹。而伏高山尾上。故其菟。從八十神之教。而伏。爾其盪。隨。乾其身。皮悉風。見吹折。故痛苦。泣伏者。最後之來。大穴牟遲神。見其菟一言。何由汝泣。伏。菟答言。僕在淤岐。雖欲度此地。無度。因故。欺海和通。言。吾與汝。競欲計。族之多。小。故汝者。隨其族。在率。來自。此島。至。干氣多。前。皆列。伏度。爾吾踏其上。走。乍讀度。

於是知與吾族。孰多。如上言者。見其欺。欺。而列。伏之時。吾踏其上。讀度。來。今將下地時。吾云。汝者。我見。欺。欺。言。竟。即。伏。最。端。和。通。捕。我。悉。剝。我。衣服。因此。泣。思。者。先。行。八十神。之。命。以。誨。告。浴。海。鹽。當。風。伏。上。故。為。如。

教。我。身。悉。傷。

於是大穴牟遲神。告其兔。今急往此水門。以水洗汝身。即取其水門之蒲。黃。敷。散。而。輟。轉。其上者。汝身如本。膚。必。差。故。為。如。教。其。身。如。本。也。此。稻。葉。之。素。菟。者。也。

於今謂。菟神也。故其兔白。大穴牟遲神。此八十神者。必不得。八上此賣。雖負。於。是。八上比賣。答。八十神言。吾者。不。聞。汝等之言。將。嫁。大穴牟遲神。故。爾。八十神怒。欲。殺。大穴牟遲神。共。議。而。至。伯。伎。國。之。手。間。山。本。云。 (以下略)

三。 瀧

八頭郡虫井村大字葦津村にあり、源を沖ノ山に發す、向つて右を小瀧といふ、二曲して流る、左を大瀧といふ、高さ凡と五十尺、白虹雲を穿つゝ似て、絶壑中に飛下す、其響隱々として、凄氣人に迫る、瀧壺の左右には、千尋の岩壁峙ち、大さ三反許り、深さ知るべか

らず、舊時は靈地として、平日此邊に入るを許さず、今猶女人の近くことを禁すといふ、其位置の高くして、水量の多き、流下は落差千尺余を得べく、近來發電所問題を以て有名あり

千代川

智頭川沿途の風景、杉林

千代川は舊智頭郡の山間より發して、佐治川八東川を合して、千代川となり、鳥取市の西端を経て、日本海に入る、因幡第一の大河あり。

智頭奥より用ヶ瀬に至るの間、高降峻嶒透迤として、連續し清流其間を穿つ、而して兩岸の連山皆鬱蒼たる樹林にして、春には櫻花の翠嵐を點破するあり、秋には楓樹の白雲ふ照映するあり、眞に天然一幅の活畫あり、且つ浮筏の流下頻繁にして、其の急流を下るの光景人として覺へず奇絶を呼ばしむ、又香魚多く、頗る風味を以て名あり。

智頭附近一帯の地は、老杉雲梯の如く、天日を蔽うて繁茂し、今や其産額縣下第一の多きに居るといふ

岩屋堂

八頭郡池田村にあり、鳥取より八里十丁、大同元年の創立に屬す、本尊は不動明王にして弘法大師の彫刻に係り、黒皮不動と稱す、目黒不動、目赤不動と共に、日本三休不動と呼ぶ、堂は山上の奇怪なる岩洞中に在り、梯に依つて上下す、飛彈内匠の建造に係れりといふ、

雨瀧

岩美郡雨瀧村の谷奥十三丁の所にあり、鳥取驛より五里二十丁高さ十三丈幅六尺飛沫亂れて雨の濺ぐに異ならず、故に雨瀧といふ、頗る偉觀あり、是れ因幡川の水源にして下流袋川となる又宮瀧、布引瀧あり、景色絶佳なり、

網代田後の絶景

岩美郡浦富港以西の海岸約一里、網代田後の絶景は、裏日本の松嶋と稱せられたる勝地に

して、観音嶋、菜種島、鳴ヶ磯、兒落しの斷崖、千貫松島、鶴島、門島、黒嶋等、菴の浮
 ぶが如く、或は鯨の吼ゆるが如く、仰ぐもの、俛すもの、参互交錯、幾多の小島皆怪松を
 乗せて、蒼海に暮布す、其海岸は、北海萬古の波濤より削られて、壁立百仞直に海を壓し
 壯大雄偉にして、千態萬狀歩々、眼界を新にす、實に天下の絶景なり。此海濱之無數の嶋
 嶼列峙せる爲め、濤勢を殺ぎ、海上平穩なれば、時に扁舟を命じ此間に泛遊する最も清興
 あり、

菜種嶋

菜種島は此海邊の小島あり、斷崖削立青松巖罅を縫ひ、暮春の候菜花全嶋を掩ひ、恰も黄
 雲の海潮に浮びたるが如く、其美觀言ふべからず、二百數十年前の記事にも此島山の頂
 に、いつの世よりや有けん、菜の種自ら生ちりて、暮春艶陽の比には、菜の花爛熳咲き
 みだれ、彼の嶋山にみちみちたれば、海濱の遙望、一片の黄雲海潮にうかび、煙霞千里の
 風景、誠にたへる佳境也とあれば、其菜花發生は、極めて舊時にあるを知るべし。

千貫松嶋

千貫松嶋は、網代の海上に在り、浦富より海上約三十町、巨巖海上に峙立して、神工鬼作
 の一大洞門を開き扁舟嶋股を穿ちて、通過し得べし、巖頭より千古の老松偃蹇たり、傳へ云
 ふ、某國主此島の老松を見て、愛賞措かず、侍臣に語つて曰く、能く之を移して我庭園に
 致すものあらば與ふるに祿千貫を以てせんと、後世因て此名ありといふ、

浦富海水浴場

浦富灣の一隅にあり、岩美驛より約二十町、西方官島の岬角突出し、向島は東北より列りて
 一小澳を成し、自然大海の波を防ぎて、些も游浴の危険なし、時に水欄に倚りて懷襟を披
 けば、海風肌を襲いて、爽快云ふべからず、實に山陰第一の海水浴場あり

牧谷權現

岩美郡牧谷村權現山(金峯山ともいふ)にあり、岩美驛より約一里四丁、金峯神社と號す、

牧谷現権は俗稱なり、文治年間源頼朝社領を寄進し、又文和年間には、山名氏清、治世祈願の爲め社領を寄附し、且つ三十二院と置き壯麗を極めたりしも、今は荒廢して其礎石を存するのみ、毎年四月十五日、九月十八日の祭日には、遠近より來り詣づる者、頗る多し、境内老木蔚蒼として、塵埃を遮り、地勢峻峯に據り、北海に臨めると以て其景色最も佳あり

岩井温泉

岩美郡岩井村にあり、岩美驛より一里十町人車を通ぎ、因但兩國の國道に衝る宿驛あるを以て、交通常に頻繁を極め蒲生川の清流其中間を貫き、夏日は杜鵑の聲、錦襖子と相和して清趣を添へ、風景泉質静養の料に適す、温泉は摺頸泉に屬し、温度百十七度、儂麻質、慢性胃加答兒其他諸病に効驗あり、旅館の設備亦完全にして、四時浴客輻輳す、發見の年月詳かならざるも元弘年間兵燹に罹り、浴場悉く廢絶に歸せしが、後屋箱を經る三百年、池田光仲當國を領せし時、之を再興せりといふ、

鳥取附近名所舊蹟

種ヶ池	岩美郡中ノ郷村大字優寺	鳥取より一里	加知彌神社	勝谷村鳥取より六里三丁	二里
寶沼神社	八頭郡八上村	三里三十七丁	鹿野城趾	鹿野町	五里五丁 一里六丁
和多里神社	大御門村	三里三十四丁	幸盛寺	鹿野町	
諏訪神社	智頭村	九里八丁	山中鹿之助の墓		
若櫻神社	若櫻村	七里一丁	龜井 茲矩の墓		
大安興寺	大村大字源持村	四里三十三丁	日野五郎之房の墓		
最勝寺	國英村大字片山村	三里四丁	水尻池		
濱村温泉	銀高郡濱村	鳥取より濱村驛より約二丁			
勝見温泉	勝見村	五里十五丁 約十三丁			寶木停車場より約十一丁

交通

本市より他管に往復する陸路の重なるもの左の諸線あり、

但馬街道 (國道)

但馬街道は鳥取より但馬國和田山及豐岡に至る線路にして途中險坂頗る多し

國名	宿驛名	里程	累計
因幡	鳥取 <small>此間に榎木峠及駒馳山峠あり</small>	五・一五	五・一五
同	岩井 <small>此間に蒲生峠あり</small>	四・三一	一〇・一〇
但馬	湯村 <small>此間に春來峠あり</small>	四・三五	一五・一〇
同	村岡	一・二七	一七・〇二
同	福岡 <small>此間に八井戸峠あり</small>	一・二三	一八・二五
同	關ノ宮	三・一三	二一・三三
同	八鹿	三・〇八	二五・一一
同	和田山		

智頭街道

鳥取より播州姫路及上郡驛に至る線路にして途中志戸坂峠(駒蹄り峠)あり

國名	宿驛名	里程	累計
因幡	鳥取	三・〇五	三・〇五
同	河原	二・〇七	五・一二
同	用ヶ瀬	二・二七	八・〇四
同	智頭	二・三〇	一〇・三四
同	駒蹄 <small>此間に駒蹄坂あり</small>	〇・三五	一一・三三
美作	阪根	二・二七	一四・二四
同	大原古町	三・一〇	一七・三五
播磨	平福	一・一八	一八・五三
同	佐用	二・二三	二〇・七六
同	久崎	二・一九	二二・九五
同	上郡	二・〇六	二五・〇一
同	姫路		

岡山街道

岡山街道は鳥取より作州津山を経て岡山に達する通路にして、智頭宿津山間には二線路あり、途中には物見峠又は馬桑峠あり

物見越線

國名	宿驛名	里程	累計
因幡	鳥取	八〇四	八〇四
美作	智頭	六二八	一四三二
同	加茂	三二〇	一八〇六
同	津村	二一五	二〇二一
同	岡山	三五三	二〇二一

馬桑越線

國名	宿驛名	里程	累計
因幡	鳥取	八〇四	八〇四
同	智頭	五二七	一三三二
美作	行方	五二七	一八五九
同	津山	三五三	一八五九
備前	岡山	三五三	一八五九

鳥取米子間
鳥取米子間には國道貫通す、然れども山陰鐵道西線本市迄開通せるを以て汽車に搭するを便とす

郡市名	宿驛名	里程	累計
鳥取市	鳥取	四二六	四二六
氣高郡	寶木	四二六	四二六

郡市名	宿驛名	里程	累計
氣高郡	濱村	〇・二四	五・一五
同	青谷	二・〇〇	七・一五
東伯郡	泊津	一・三四	九・一三
同	橋津	一・三二	一一・一〇
同	長瀬	〇・一五	一一・二六
同	由良	二・二六	一四・一六
同	八橋	二・〇〇	一六・一六
同	赤崎	〇・二三	一七・〇三
西伯郡	下市	二・〇五	一九・〇八
同	御來	一・二九	二一・〇一
同	淀江	二・〇七	二三・〇九
同	米子	二・一七	二五・二七
同	境子	四・一二	三〇・〇三

山陰鐵道

山陰西線は出雲の今市より松江、安來、伯耆の米子、倉吉等の名邑を過ぎ、本市を経て浦富に通ず其延長百七哩餘、米子より分岐して伯耆の西端境港に達す、尙本線は他日今市より進行して石州濱田を過ぎ、山口縣下山口町を経て小郡に達し、又鳥取方面は進んで但馬に入り香住より出て、山陰東線と合し和田山に至りて播但線に接続す、又之れと同時に一は和田山より分岐して福知山に至り、阪鶴線及京都線に接続するの結構なりと云ふ。

鳥取驛

本市の南端東品治村に在り、

哩程

自鳥取	至松江	七五・六
同	至米子	五七・六
同	至境	六八・四

自米子	至松江	一八・〇
自松江	至今市	二〇・五
自今市	至杵築	約二里半

自鳥取	至福知山	八八・六三	自鳥取	至大阪	一六三・二二
同	福知山經由	一六〇・五三	自姫路	至神戸	三四・〇五
同	綾部經由	一四四・五八	自神戸	至大阪	二〇・二七
同	至京都	六七・七〇	自大阪	至京都	二六・六四
同	至和田山				

船車哩程

自米子驛	至津山驛	約二十六里	自境	至敦賀	約百四十六哩
自倉吉驛	同	約二十里	同	至舞鶴	約百三十四哩
自鳥取驛	同	約二十里	同	至隱岐	約四十五哩
同	至上郡驛	約二十五里	同	至門司	約百九十二哩

右の外主なる道路は雨瀧街道、賀露街道とす

街道名	郡市名	地名	里	程	累計
賀露街道	鳥取市	二階町三丁目	一・二〇		
	高那	賀露港			

雨瀧街道	郡市名	地名	里	程	累計
同	鳥取市	立川村	二・四		
同	岩美郡	宮下村	二・〇〇		二・二四
同	同	中河原村	一・三三		四・二一
同	同	雨瀧村	〇・一三		
同	同	雨瀧(瀑布)	〇・一三		
同	同	十王峠	一・二二		六・〇七

鳥取市元標より三府及近縣に至る里程は左の如し

地名	里	地名	里
東京府	一九九・三一・五三	廣島縣	七六・〇六・二二
京都府	六五・一四・三九	島根縣	三五・二四・五四
大阪府	五四・二四・一四	第十師團司令部	三〇・二一・三四
兵庫縣	四五・二一・三〇	第八旅團司令部	
岡山縣	三三・三〇・〇〇	第廿旅團司令部	三三・〇八・〇〇

人力車賃錢

一五丁以内 金五錢以内
一十丁以内 金八錢以内

十丁以上は一丁毎に金五厘を増す

但夜間及晝間雨雪泥濘の節は各二割夜間に雨雪泥濘の節は三割以内を増すことを得

一客待時間一時間金四錢

一雇切一日金八拾錢とす

今左に鳥取驛より市内の賃錢を掲ぐ

目的地	里程	賃錢	目的地	里程	賃錢
鳥取縣廳	一三、一八	拾錢	物産陳列場	一四、〇〇	拾錢
裁判所	一五、一三	拾壹錢	東町四ツ角	一七、二五	拾貳錢
鳥取市役所	一一、〇〇	九錢	湯所交番所	二八、三三	拾八錢
縣立病院	一一、一一	九錢	天徳寺	二三、二九	拾五錢
高等女學校	一六、二〇	拾貳錢	山	三四、三〇	貳拾錢

目的地	里程	賃錢	目的地	里程	賃錢
鹿野町	一五、二一	拾壹錢	寺町中央	一二、一〇	拾錢
出合橋	一九、三二	拾參錢	吉方温泉	一二、三三	拾錢
茶町交番所	一一、二〇	九錢	吉方村	一七、〇三	拾貳錢
茶町	一一、二〇	九錢	吉方町中央	一五、〇〇	拾壹錢
堀切橋	一八、五〇	拾參錢	御弓町中央	一五、〇〇	拾壹錢
行徳新道	一六、二〇	拾貳錢	上町	一六、〇〇	拾壹錢
鳥取監獄	一九、二〇	拾參錢	立川町一丁目	二〇、〇〇	拾參錢
川端三、四丁目	九、一九	八錢	立川交番所	一八、五三	拾參錢
二階町三、四丁目	一一、二〇	九錢	管所	三三、四〇	貳拾錢
鳥取郵便局	一一、一九	九錢	栗谷町	一七、〇〇	拾貳錢
鳥取警察署	一〇、三九	九錢			
外市場	一二、三三	拾錢			

(算出上座位ハ錢位ニ切上ケ)

市の物産

市に集散する産物の重なるものは、米、麥、蕎麥、生糸、織物、漆器、紙、三椏、葛粉、麻、傘、提灯、清酒、菓子、履物類、指物、建具、材木、竹細工物等にして、其種類約三十種許

本市の産業はいまだ大に振るはざれども其額は實に二百萬圓に達すべし、而して是等の産物は縣内縣外は勿論、遠く海外に輸出せられつゝあり。

名物 當市の特有名物とも稱すべしものは白珊瑚、海松の細工品にして、其珍奇にして優

美高尚なるは、他府縣に比類なく其製品は箸、洋杖、寫真掛、パイプ、煙管、筆立、筭

ペン軸、置物等あり、故に一度鳥取に遊ぶものは争ひて購はざるをなし。

食物には鯛、松葉蟹、鱒、松茸、水飴等にて、新兵衛柿の美味ある亦名物の一に數らる。

各種の設備

物産陳列場

鳥取縣の設立にして市内西町にあり縣内各種の生産品を周ねく蒐集して遺さず、別に縣外各地の製産品は参考品として陳列せり。

圖書館

鳥取縣物産陳列場構内にあり鳥取市教育會の施設に係る。

勸商場

智頭街道筋の敷片原町に鳥取勸商場あり、三階の建物なり。若櫻街道筋片原

一丁目には鳥取東勸商場あり各種の商品を陳列し正札を以て即賣す、兩勸商場とも階上に大廣間ありて集會等の使用に供せらる。

植物園

本市薬師町に伊吹植物園あり、伊吹庄藏の私設に係り、園内臺地わり池沼あり亭榭あり果樹、觀賞樹、花卉、種苗の類多し四時就て流遊を試む者絶えず。

水力電気

鳥取市の製造業及設備に對し多大の關係を有せんとするは鳥取電燈株式會社にして、發電所は袋川の上流大茅川(岩美郡上船村大字上荒船村)に設けられ居るも別よ千代川の上流に發電所を設け水力を利用して電氣を起し居れり、この電力は市内の電燈のみにあらずして、更に機械力の原動力となり居れり、殊に精米、製材の事業は之れが爲め頗る盛大なれば、今後この水力電氣は地方産業の原動力となり各種の工業に利用せらるべし。

電信電話

電信の設備の整ひ居るはいふ迄もなく、人口の増加と商工業の發展とは遂に電話の架設を見るに至れり、電話交換所は本町一丁目鳥取郵便局内に設けらる、目下加名者の數、三百五十餘名なれども年と共に増設さるゝあるべし、尙長距離電話は東京、京都、

大阪、神戸、岡山其他主要の地へ通するを以て鳥取の商人は坐あがらにして是れ等各地との商取引をなすの利便あり。

旅館 市内にて宿屋業を営む者約百二十戸あり、旅人宿と下宿屋の二種に分れ宿泊料は一泊(二飯)四十五錢以上、大抵六拾錢より貳圓位迄にて、下宿屋は旅館に比し萬事格安にして、學生寄留者、若くは長く滞在する旅客には最も便利あり、旅館の重なるもの左の如し

小せにや	元大工町	鳥取旅館	川端三丁目
湖山屋旅館	本町一丁目	新但旅館	同上
鳥取温泉旅館	吉方村	上但旅館	同上
高砂温泉旅館	同上	若木屋旅館	同上
三階温泉旅館	同上	木屋旅館	同上
温泉金加	同上	吉成屋旅館	川端四丁目
中忠旅館	川端四丁目	千田屋旅館	同上
坂田松榮館	四町	小一旅館	本町一丁目

理料屋 關西の魚は味繊細にて風味の豊かなることは天下の公評あるが、日本海の鮮魚に

至ては味の美なること世人の夙に賞賛する所なり、鰯、松葉蟹よ至ては名物の稱あり、湖山池の鰻魚亦京阪地方に輸送するもの多し、殊に鐵道の便開け座をがらにして、松江宍道湖の鱈、境の鰯、美保關の鯛等鮮魚の絶ゆること多く、久松山の鮎姿を前に淺酌微吟するも旅客に取りて一段の興趣あるべし、料理店、飲食店、市内到る所にあり。

龍	老亭	鹿野町	花月樓	上魚町
	清	榎川町	八百竹	四町
平	爲	本町二丁目	丹廣	四町
萬	歲亭	片原二丁目	樹の枝温泉	吉方村
浦	五	二階町四丁目	長谷川	本町三丁目

右は多人數の會席に應し得らるべきものなり、其他重なるもの左の如し

學校 圖書館、幼稚園、孤兒院、報德社

鳥取縣師範學校	東町	鳥取高等小學校	東町
縣立鳥取中學校	同	醇風尋常小學校	四町
縣立鳥取高等女學校	同	修立尋常小學校	吉方町
縣立商業學校	同	遷喬尋常小學校	本町一丁目

日進尋常小學校 吉方村
 鳥取縣師範學校 東町
 附屬小學校 東町
 鳥取盲啞學校 寺町
 進士學舎 東町
 申孝學舎 梶川町
 味道學館 桶屋町
 鳥取技藝女學校 掛出町

鳥取女學校 寺町
 鳥取圖書館 西町
 鳥取幼稚園 東町
 久松幼稚園 同
 鳥取育兒院 同
 鳥取婦人報德社 中町

病院

鳥取市傳染病院 川下町
 縣立鳥取病院 四町
 伊藤病院 本町一丁目
 佐々木病院 吉方町

吉田病院 立川町三丁目
 西川病院 吉方町
 私立贊恢病院 東町
 岡田胃腸病院 藪片原町

新聞社

新聞名 創 立
 鳥取新報 日刊 明治十六年六月廿八日 鳥取市鍛冶町 鳥取新報社
 因伯時報 日刊 明治廿五年二月三日 同本町二丁目 因伯時報社

所在地

發行所

官公署

鳥取縣廳 東町
 鳥取縣會議事堂 同
 鳥取地方裁判所 同
 鳥取區裁判所 同
 鳥取聯防區司令部 同
 鳥取稅務署 同
 鳥取憲兵分隊本部 四町
 鳥取憲兵屯所 同
 鳥取小林區署 上町
 鳥取郵便局 本町三丁目
 瓦町郵便局 瓦町

立川郵便局 立川町三丁目
 鳥取吉方郵便局 吉方村
 鳥取市役所 四町
 岩美郡役所 東町
 鳥取警務署 藪片原町
 鳥取縣物産陳列場 西町
 鳥取縣醫病豫防事務所 栗谷町
 鳥取縣原蠶種製造所 同
 鳥取縣度量衡檢定所 東町
 鳥取縣第一土木區工務所 同
 日本赤十字社鳥取支部 同

興行場 妓樓

大黒座

今町一丁目あり明治三十五年の創立にして構造完備我市第一の大劇場なり、明治七八年

鳥取市の謠唄

本調子
人皇十一代垂仁の帝の御宇。皇子品治別命。合 御年三十歳に及ぶまで。

合 猶ものいはで 合 おはせしに。合 ある時空飛ぶ鶴を見て。合 始めて何ぞ

のたまへば。合 帝悦びましくて。合 天湯河棚に仰せあり

合 湯河棚畏みて。合 出雲の國まで追ひ至り。合 やがて捕り獲て獻る。合 され

合 は敬感淺からで。合 姓と鳥取と賜ひけり

合 時の榮えは年をへて。合 世の盛衰に移れども。合 名残を今も因幡路の。

合 久松山の山下に。合 止めて二千餘年とかや

二重リ
合 昔の跡もとりに。合 築めて仰ぐ扇の邸。合 開くや花の招魂社。合 賑

合 ひつとむ袋川。合 懸にちがる。合 賀露川涼み。合 水道紅葉の赤ぢやうちん

合 に。合 雪のゆかたの袂もろまる。合 色に染まるは袂ばかりか。合 比翼

合 の契末わけて。合 久しき例千代川や。合 つらぬ流れの底清らこと

本調子
合 實にこの里の人心。合 開けゆく世に標路。合 神の 合 守護やとひぬらん

明治四十二年九月廿五日 印刷
明治四十二年十月一日 發行
明治四十四年九月廿五日 訂正増補印刷
明治四十四年十月一日 發行

(定價金拾貳錢)

鳥取縣鳥取市役所

印刷者

吉田 八 得

印刷所

吉田 活版所

鳥取市四町(鳥取市役所前)

島田書店

鳥取市東町

平木久松堂

鳥取市上魚町

横山書店

鳥取市本町一丁目

ロース商會

所賣發

鳥取市本町三丁目

山本尙文館

鳥取市本町二丁目

太田書店

▲山陰線の全通を俟ち
大發展の機運に遭遇せる鳥取市に於て最
も信用するに足る唯一の運送業者として
無限に發展すべき覺悟と勤勉とを以て運
送業一般の業務を確實機敏に經營致し候
間一層の御眷顧を蒙り度偏に希望仕候▼

鳥取市鳥取驛前



由谷運送部

電話 圓五〇番
振替貯金 大阪二〇四九番

大阪商船株式會社鳥取代理店
日本遞業株式會社鳥取取引店



鳥取市吉方温泉
電話七四番

會席樹の枝

鳥取市吉方温泉場

長電六六番

金銀銅牌數拾回受領

鳥取名產

百合羊羹本舖

鳥取市智頭街道

菓子商 小谷亀甲家

電話二五番

振替口座東京一七二〇九番

金銀銅牌數拾回受領

鳥取名産

百合羊羹本舖

鳥取市智頭街道

菓子商 小谷亀甲家

電話二五番

振口座東京一七二〇九番

國産紙卸商

並
文房具

鳥取市若櫻町筋本町東角



鶴田屋角出店

鳥取市智頭街道筋片原三丁目

營業品目

繙帶材料
化學用品
醫療用品
工業用品
洋酒洋食料
繪具染料

石灰 生用 毒消
元 賣 發

大村藥舖

(電話長五九番)

鳥取風景のさ 各種

因幡 伯耆 地理 歴史 葉書 色々

日本全國 地理歴史參考葉書帖
台灣樺太 朝鮮滿洲

紀念繪葉書 調製 貴需 二應ス
コリメイノ葉書

鳥取市智頭街道筋郵便局角ヨリ二丁目

外繪葉書發賣 森繪葉書店

株 米

大阪株式取引所仲買人

尼崎愛藏商店

手引書無代進呈

鳥取市吉方

取扱店

太田武治郎商店

電話長三四三番

大阪米穀取引所仲買人

奥村市松商店

美術漆器
椀 木 地

製 造 所

鳥取市智頭街道筋

會

漆 器 商

松木節次郎本店

同市川端三丁目

松木塗工場

八頭郡中原村

松木木地挽工場

美術漆器
椀木地

製造所

鳥取市智頭街道筋

會漆器商

松木節次郎本店

同市川端三丁目

松木塗工場

八頭郡中原村

松木木地挽工場

蒸氣消毒牛乳

牧畜場 鳥取市西町二百九十三番地

大 鹽
小 林

共同牛乳販賣部

電話一六番

牧畜場 鳥取市寺町四十八番地

美 萬色染
美 模標物染切賣所

鳥取市豆腐町

染工場

念

鳥取市元魚町三丁目

松村陶器店

風味佳良

鳥取名物
御茶用
都
以
ぬ

鳥取市新町

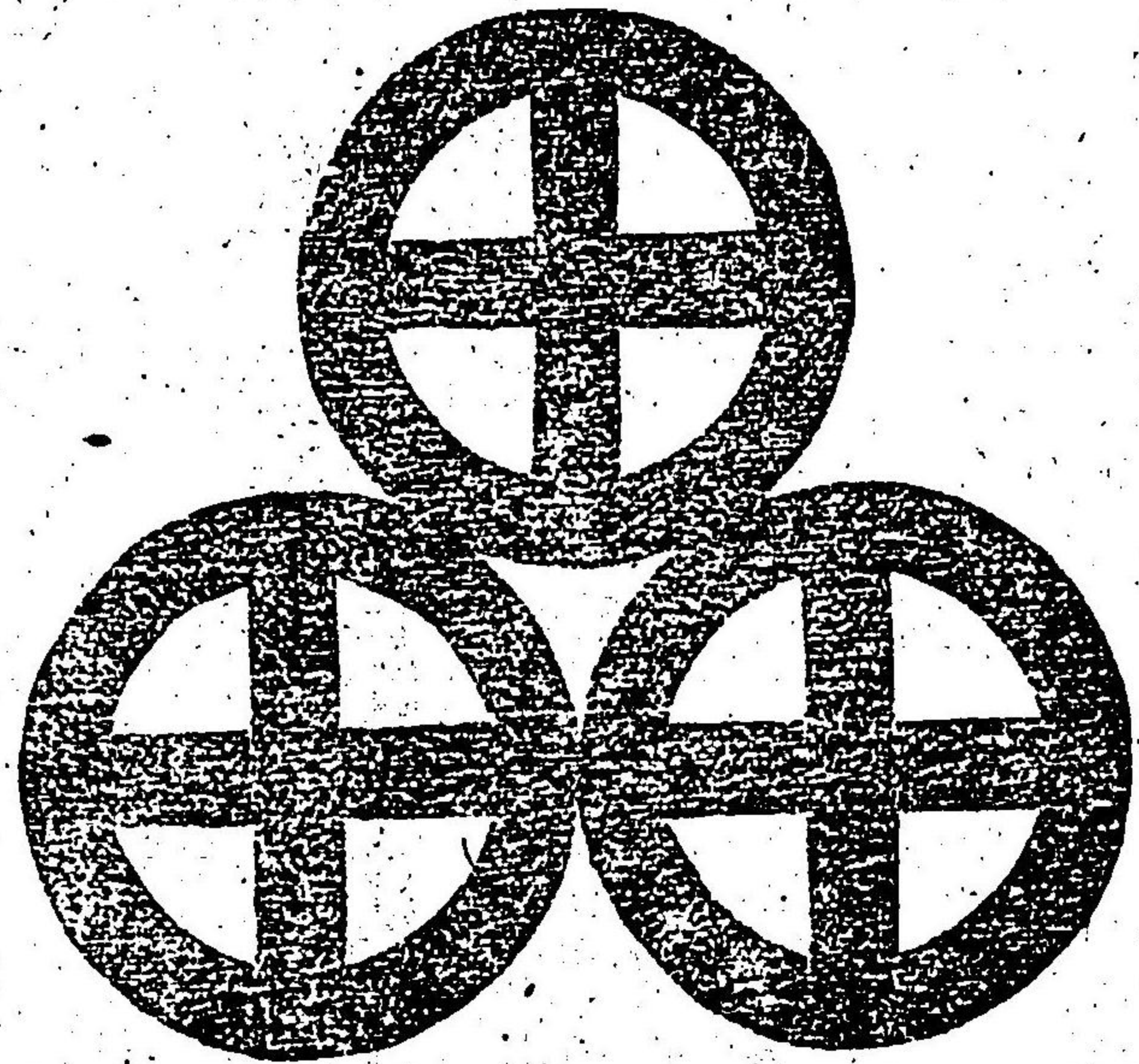
元祖製選販賣所

福松園

進物適當

元織製表疊產國

各國疊表莫陸



柳行李并二附屬品

鳥取市若櫻町筋

店本中田

歐米雜貨

鳥取市若櫻町筋
福屋洋品店
電話二九番

硝子器一式

龍野醬油販賣

鳥取市若櫻町筋

柴原硝子店

營業種目

精米業

鳥取市藪片原町

製材業

鳥取精穀合資會社

機械製造販賣元
製氷

電長二八番

廣告

營業種目

御足袋各種

シヤツズホン下

仕立物類一切

メリヤス色々

人造ヒヤシ袋

天然ヒヤシ袋

ゴム水枕色々

製氷卸小賣

鳥取市若櫻街道筋若櫻町

金田商店

電話二七三番デ呼出シ被下

鳥取製氷元賣捌所

製氷卸部 金田日進氷室

製氷特約販賣御希望ノ御方ハ御申越被下度
委細ハ御面談ノ上勉強可仕候

内外書籍
和洋文具
理科器械
運動器具
風琴
グアイオリン

鳥取市東町
縣廳前

平木書店

鳥取市金口座
大阪八二六五
長電話三四番



網谷金治商店

鳥取市元魚町三丁目
電話長二六番

類 來 石 綿 板 (系)	船 具 滑 車	帆 布 麻 布	棕 櫚 材 料	綿 糸 ロ ー プ	マ ニ ラ ロ ー プ	漁 網 材 料	內 外 麻 苧
------------------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------------	----------------------------	------------------	------------------

東京製網株式會社製特約店



內外書籍
和洋文具
理科器械
運動器具
風琴
ヴァイオリン

平木書店

鳥取市東町
縣廳前

鳥取市金口座
大阪八二六五
長電話三四番

產國
疊青莫行新襖着
表廷蔭李疊床建莫
蔭其他雜貨

御

商

鳥取市二階町三丁目

政

本鄉政市

陶磁器宇治茶

一知目藥摩尼打身丸藥

因久山燒販賣所

鳥取市若櫻町筋

金田駒吉商店

工

ビ

ス

醬

油

芳香卓絶

風味佳良

色澤透明

鳥取市立川町壹丁目

惠美須屋 醬油 醸造 合資會社

鳥取市吉方温泉場

金加温泉旅館

長電話一五三番

岩美郡浦富村

海水溫泉清風館事

御旅館 竹間清藏

岩美郡浦富港

浦富海水浴

旅館 觀潮樓

涼船乘客取扱店

鳥取市本町三丁目

山本尙文館

長電話三三三三

大阪九〇三五番

書 籍
樂 器
運 動 具
理 化 器 械
文 房 具
教 育 標 本

名譽金牌受領

萬 漆 商

并金銀箔粉類附屬品一切
薩摩陶器販賣所

本店 大阪 福島漆行

鳥取市二階町二丁目

福島漆行鳥取支店

- 南區支店
- 鹿兒島支店
- 市內八幡筋
- 鹿兒島市吳服町
- 松江支店
- 松江市天神町
- 鳥取支店
- 鳥取市二階町
- 姫路支店
- 福岡市
- 福岡市福中町
- 博多支店
- 博多上、東町
- 湖北省漢口
- 那霸區東町
- 南嘉次郎商店
- 高松市新町
- 杉所德次郎商店
- 靜岡市梅屋町
- 石谷吉太郎商店
- 高松代理店
- 沖繩代理店
- 清國支店
- 博多支店
- 博多支店
- 高松代理店
- 靜岡代理店

名譽金牌受領

萬漆商

并金銀酒粉類附屬品一切
薩摩陶器販賣所

大阪店 福島漆行

鳥取市三階町三丁目
福島漆行鳥取支店

市內八幡筋	鹿兒島市吳服町	松江市天神町	鳥取市三階町	姫路市福中町	博多市上東町	湖北省漢口	那霸市大町	南高松市新町	高松市新町	杉所徳次郎商店	静岡市梅屋町	石谷吉太郎商店
南區支店	鹿兒島支店	松江支店	鳥取支店	姫路支店	博多支店	湖北支店	那霸支店	南高松支店	高松代理店	静岡代理店		

萬金物商

建築材料

日用金物

及物各種

鳥取市二階一丁目
山家支店



鳥取市川端三丁目

丸共運送店

長電話二二二番

鳥取停車場前



丸共運送店荷扱所

電話番

實用新案登錄第二一七二二號

眞田式掃立紙發賣元

鳥取市新町

坂田赤衛農器具部

電話三四八番

國產紙類卸商

鳥取市鹿野街道

小田商店

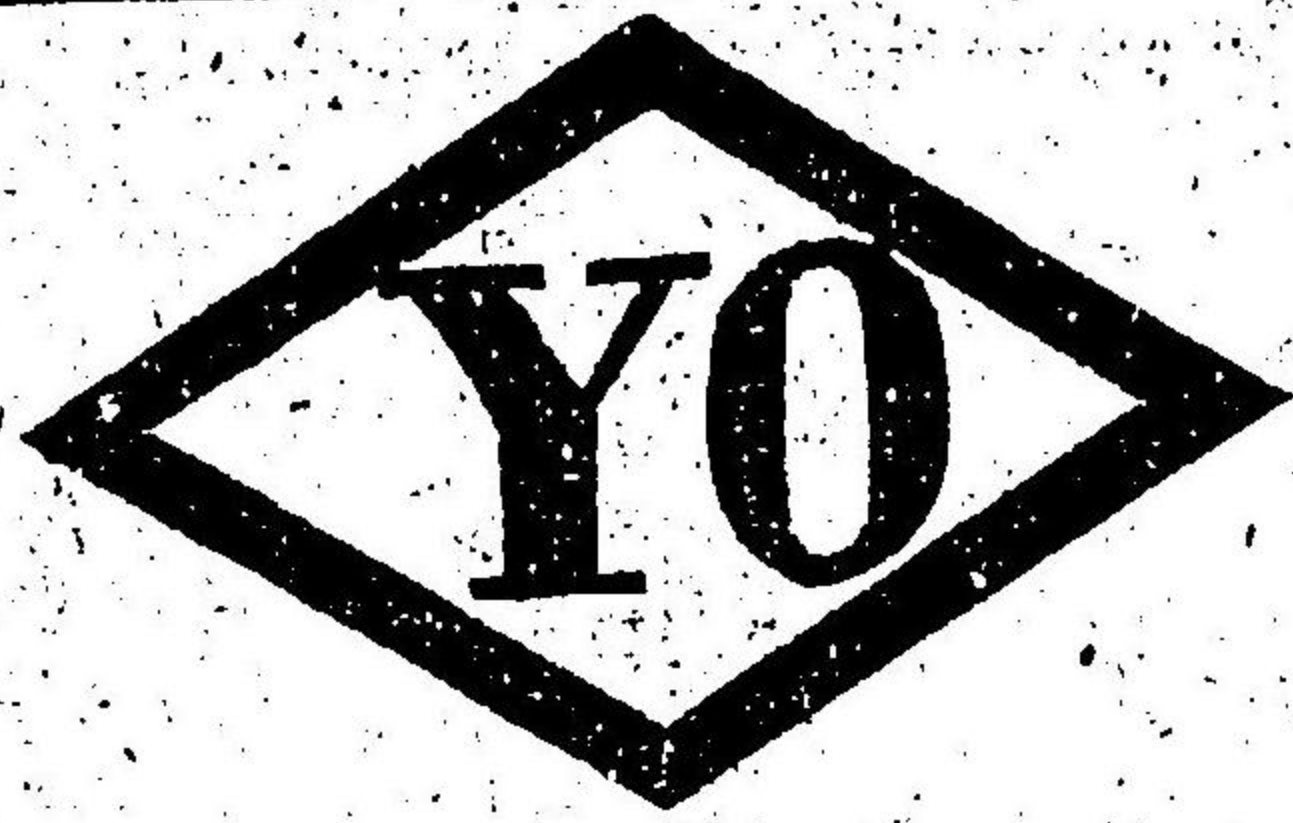
電話三四八番

各種肥料商

鳥取市鹿野街道

因幡肥料合資會社

電話三四八番



文具卸商

營業 狀袋製造
和洋製本

種 學校用品一式
目 各種齒擦箱

鳥取市內吉方町
平木商店
電話二五二番

鳥取市鹿野町

御料理 偕老亭

電話一二〇番

鳥取電燈株式會社

鳥取市二階町四丁目三拾七番地
電話百五拾壹番

御 旅 館

同市同町

上

長電話一〇二番

但

同市同町

木

長電話三六〇番

屋

同市同町

新

長電話一〇一番

但

御 旅 館

鳥取市若櫻町筋(本町三丁目)

湖

長電話三五番

山

屋

同市川端三丁目

米

長電話一二五番

善

同市同町

若

長電話五五番

木

屋

御

旅

館

鳥取市川端四丁目

津山屋

全市全町

千田屋

長電話一八九番

全市全町

吉成屋

長電話一三三番

御

旅

館

全市全町

木直

長電話三五〇番

全市全町

中忠

長電話一四〇番

全市全町

安長屋

電話三一九番

御 旅 館

鳥取市元大工町

小 錢 屋

長電話 一三番

同市川端一丁目

三 原 屋

電話 三二八番

同市川端三丁目

播 磨 屋

(法傳家)

鍼 術 揉 手 術

治 療 院

諸病一切、筋力がひ
無痛療法

○自今は急患者及び産婦乳解手術の外々出治療不仕候に付患者諸彦は左
の新住所へ續々御來車を乞ふ

○元鳥取市豆腐町眞嶋事

院主 同市驛前菊橋西角二軒目
古田千賀造

家傳

陽氣散

定價 三包大金五錢七包大銀拾錢
二包大銀十五錢廿包大銀三十錢

かせねつ たんせき くすり
風熱、痰の妙薬

○効能確實商標に御注意御買求を乞ふ

○販賣所は到る處の藥店にあり若しなごときは御送
金次第御送付仕候

鳥取市豆腐町

眞嶋

製造發賣本舖

眞嶋三省堂藥舖

商 標



岩

井

内

岩

井

屋

岩

美

館

花

屋

屋

温

湯

角

屋

泉

設

駒

屋

旅

備

明

石

屋

館

備

木

鳴

屋

備

前

屋

明目録



備前屋 鳴屋 木 明石屋 駒屋 角屋 花屋 岩美館 岩井屋

イロハ順

備前屋 鳴屋 木 明石屋 駒屋 角屋 花屋 岩美館 岩井屋

皇太子殿下御行啓之際御旅館庭前ニ於テ
 刀劍鍛練御上覽ノ榮ヲ賜フ

製造品目

刃物  農業用金物一切
 鑄物  建築用金物一切
 大工木挽用金物
 和洋鑄物一式
 其外金物一切販賣

鳥取市元大工町西橋北側四軒目

通名 伊平鍛冶 山陰福嶋鐵工場



内國通運株式會社鳥取取引店
 帝國生命保險株式會社鳥取代理店
 株式會社中國貯蓄銀行鳥取代理店
 徵兵保險株式會社鳥取代理店

本村繁造

長電話 三三五番
 振替貯金口座大坂第三六一〇番

日本海上運送保險株式會社鳥取代理店
 硫酸肥料株式會社特約販賣店
 肉骨粉肥料特約販賣店
 東京竹内製金庫一手販賣店

東京小間物袋物類
量器全部製作業
度量衡器販賣

鳥取市智頭街道筋二階町角

吉村商店

電話二二二八番

書籍雜誌
自轉車附屬品
製本雜誌、辭彙錄、和洋、口繪、寫本、綴直し

鳥取市西町市役所前

鳴田書店

茶商

萬屋萬井源太郎

鳥取市川端四丁目

長電話二二〇番

并ニ茶道具書畫販賣

永らく東京に滞在中の處現今歸鳥

東京足袋專門

鳥取市智頭街道筋二階町角東入

商號ねづみや 山川商店

山陰道二

於ケル

滋養

煎餅

元祖

皇太子殿下御買上光榮賜

Ganso
Motosenbe

高野等菓餅

中谷商店
取津
茶堂
町

電話架設中

魚印肥科各種類

純正菜種油相

其他

練



伊吹肥料店

肥料の性質... 伊吹肥料店

家傳
秘法
順天膏

●一切の一切
●炎槍ちの痛
●寒凍
●あかさ

いんきん田虫 血まきつゝきつゝあ場大い見たい毒

總て淋症皮膚病には●

火でちて●腫じて●ぬ

二週間にて全治す

たい毒患者の

禮狀山の如し



血順天油

男女前の痛ぢの痛ぢ

鳥取市三階町二丁目 小田傳五郎

共進會 一等賞受領

御婚禮用具一式

和洋家具類

鳥取市三階町二丁目

樂山 山口指物店

電話三五七番

因幡國 特有物產 白浪製造元

鳥取市元魚町三丁目

海產物卸商 谷叶市右衛門

長電話二三八番

山陰線鳥取驛前

今、鮮魚、楠城運送店

長電話三五二番

最新型寫真攝影

鳥取、嶋根、各地方名勝繪葉書 製版所
コロタイプ

鳥取市大工町頭

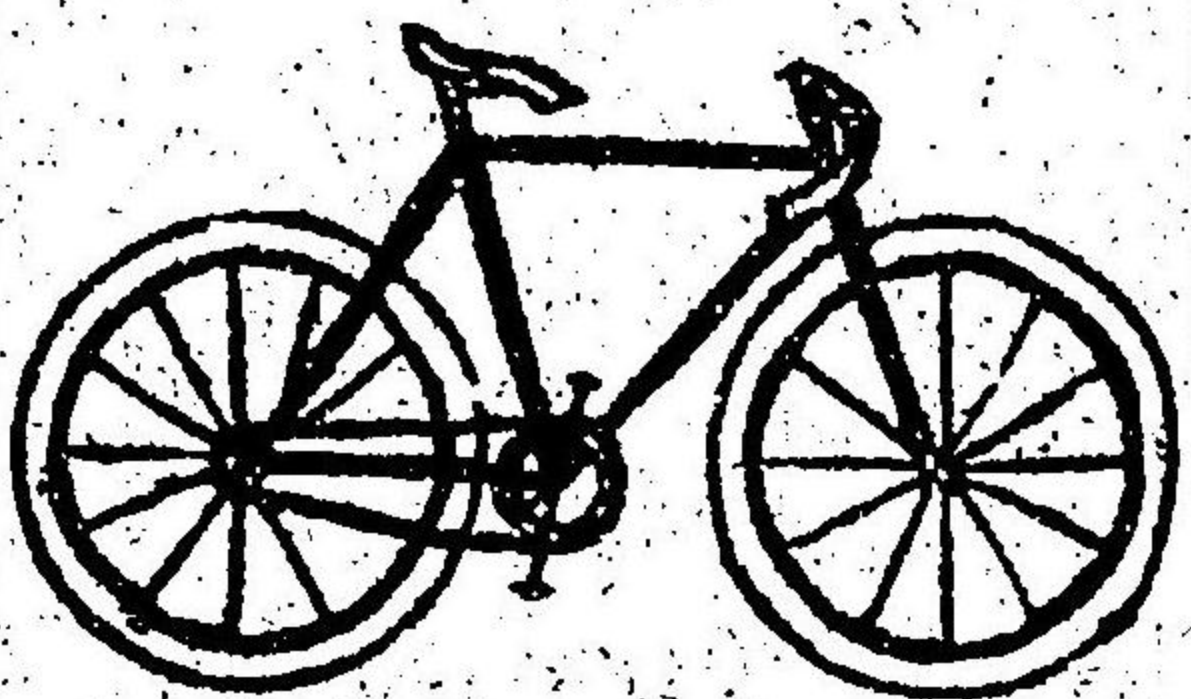
山縣寫真館

銃砲製造及修理

諸器械製作

自轉車及附屬品販賣

并ニ修理

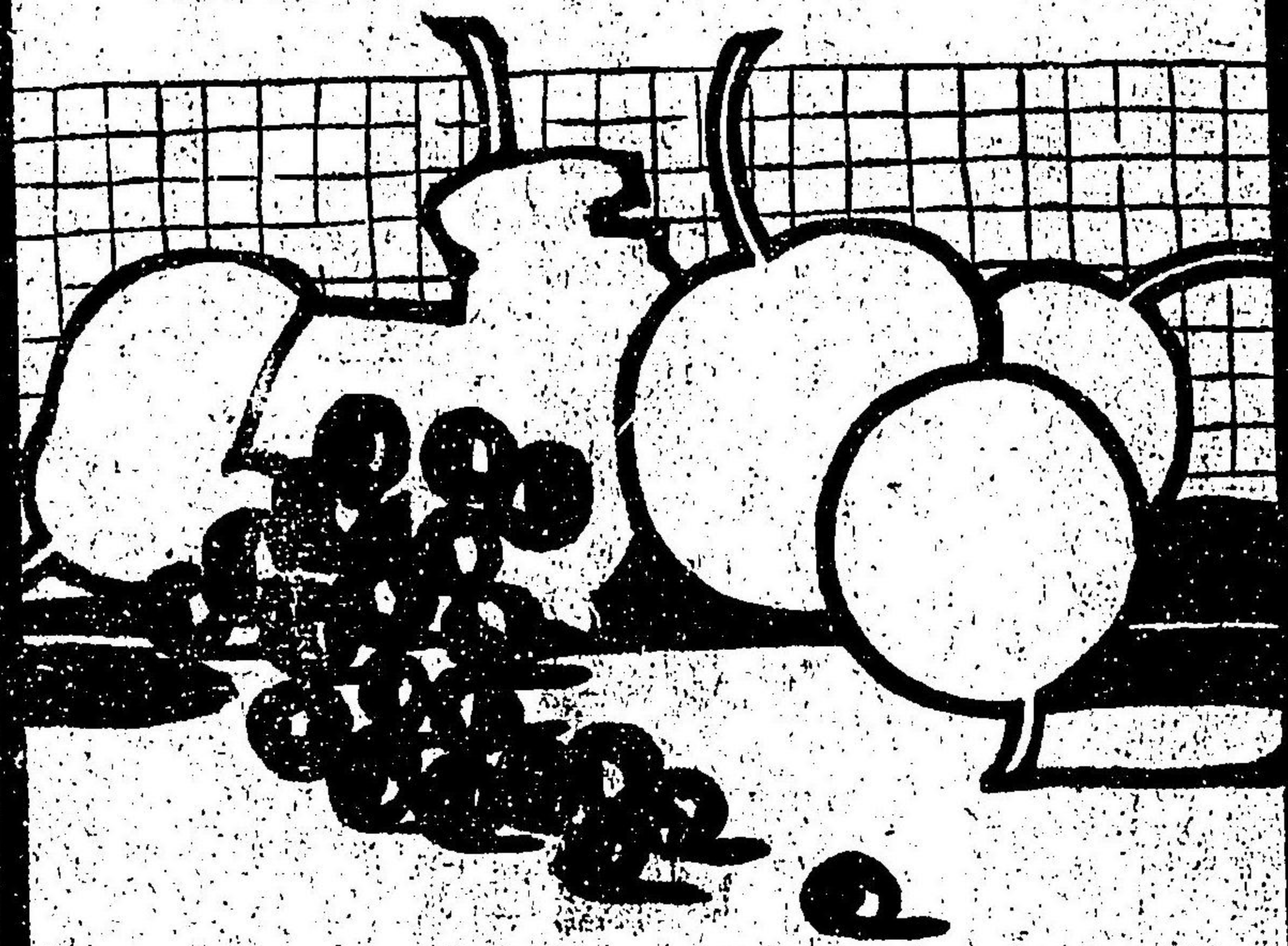


鳥取市新町

菅鐵工所

鳥取農園販賣部

電話三五〇一番



登録商標

鳥取市元魚町二丁目
由各種油類商

電話三六四番

足袋製造所

消防用ハッピ、バツナ頭巾手覆調進
 并ニシヤツ、ズボン下各種

鳥取市若櫻橋向南角

茂田商店

268
425

鳥取市智頭街道筋

マカラズヤ毛織物店

特電三三七番
電略マカ

268
425

砂糖

珍菓子

高等
茶用
教員澤せん魚以

菓名
法志卷

意匠登録出願中

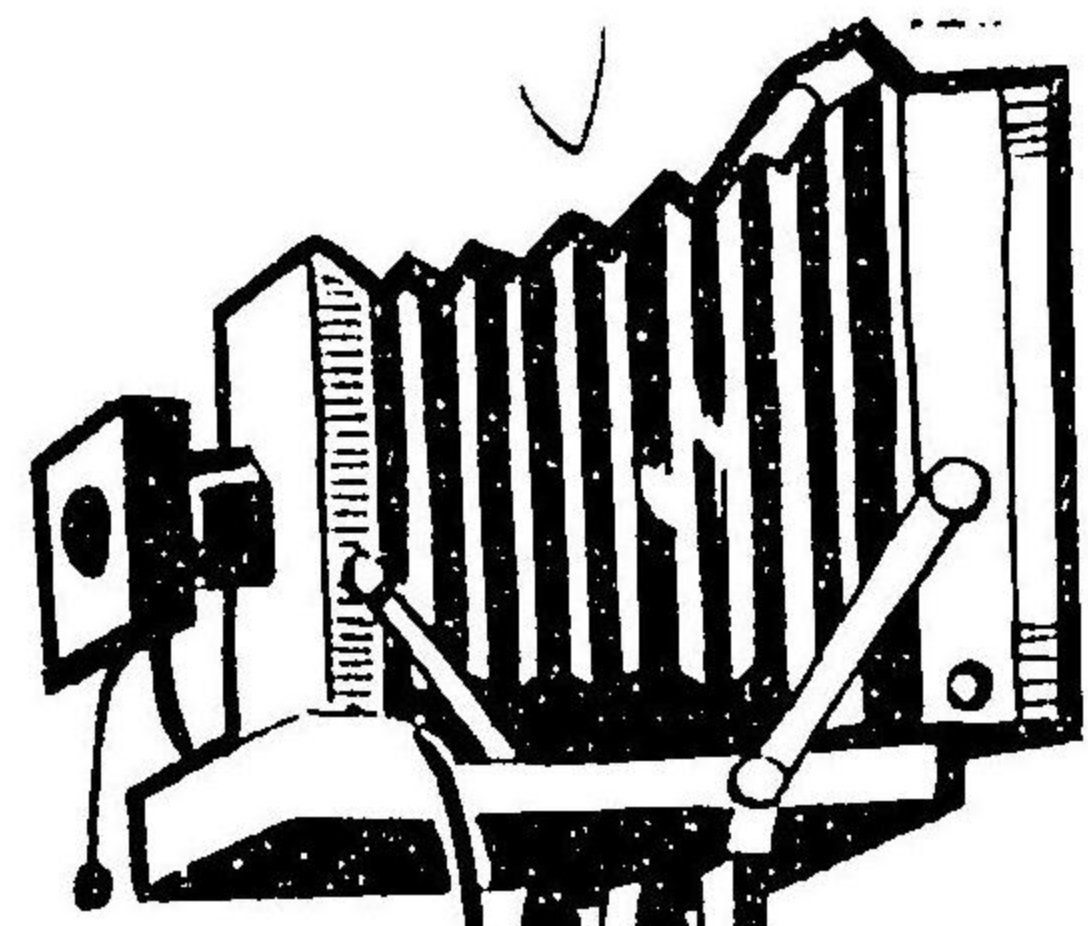
鳥取市智頭法道筋本町角

田中金藏店

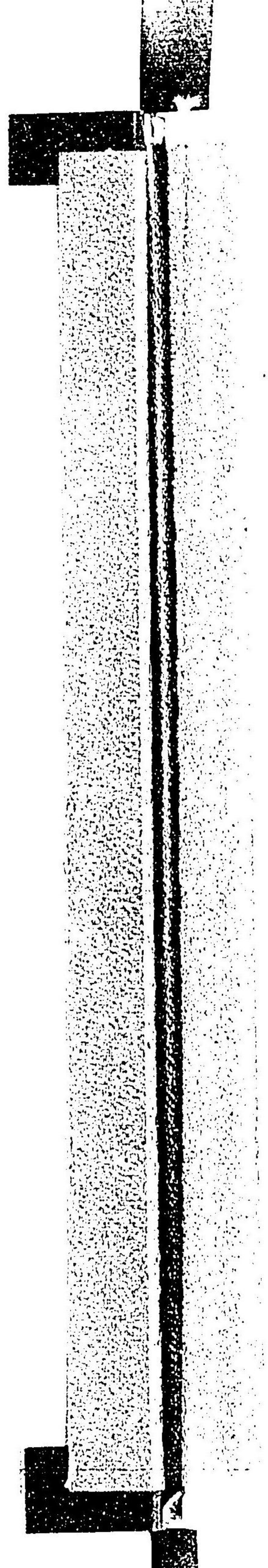
電話三三八番

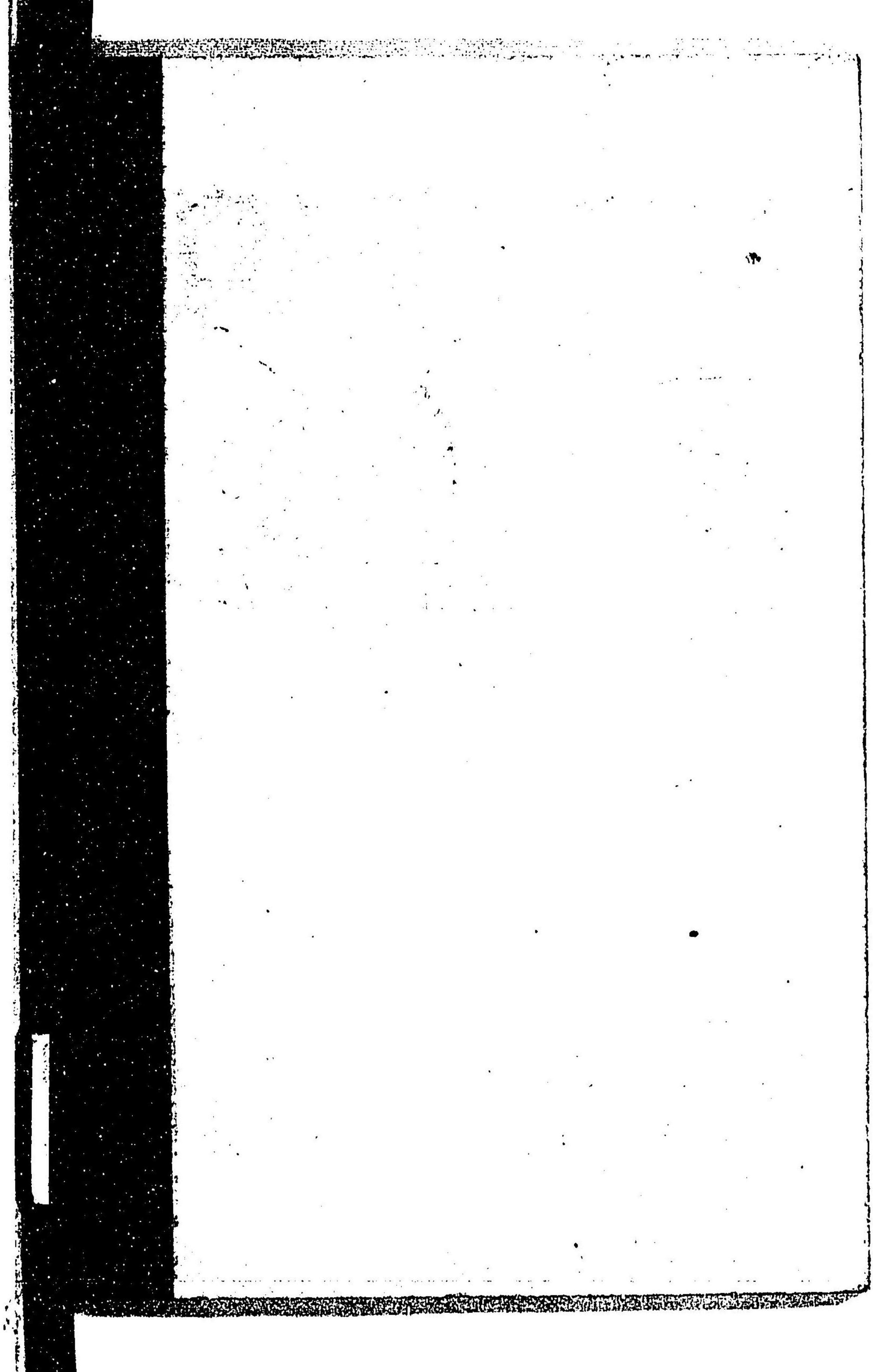


生國真館



烏取市西町農工銀行前
電話二三九





鳥取案内

鳥取市役所

国立国会図書館

025919-000-7

特49-913

鳥取案内

鳥取市役所/編

M44

ADC--3493



